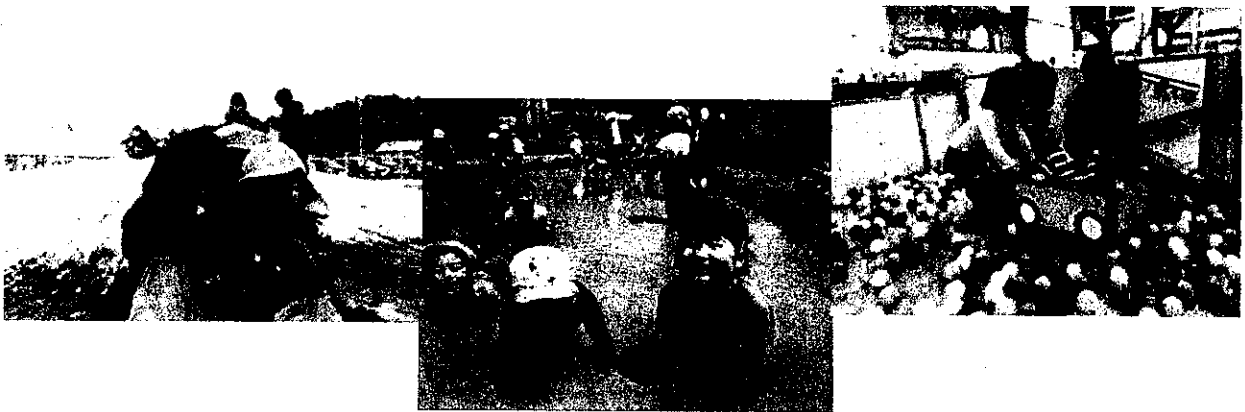




鳥取県幼保小連携カリキュラム

「遊びきる子ども」をめざして



平成26年3月

鳥取県教育委員会



はじめに

鳥取県教育委員会では、平成16年5月に策定した「鳥取県幼児教育振興プログラム」を平成24年度に改訂し、幼児教育の充実に向けた今後の方向性や取組を示した「鳥取県幼児教育振興プログラム（改訂版）」を策定しています。

このたび、前記プログラムに基づき、幼保小の相互理解と、連携による教育の充実と一層の推進をめざし、円滑な接続を進めるための『鳥取県幼保小連携カリキュラム』を開発しました。

本県では、幼稚園・保育所・認定こども園、小学校、中学校、高等学校、大学等の校種間連携による一貫性のある教育の実現をめざした「スクラム教育」に取り組んでいます。校種間でつながりのある教育を行うことを通して、鳥取県の未来を担う健やかな子どもたちの育成をめざしています。

県内においては、幼児期の教育と小学校教育の連携も徐々に広がりを見せ、着実に進んでおり、幼児教育・保育、小学校教育の充実に向け、さまざまな取組が行われています。今後、教育内容や教育方法等について、さらに相互理解を深め、幼児教育・保育、小学校教育の質的な充実を図る取組が求められています。

このカリキュラムには、本県のめざす幼児の姿である「遊びきる子ども」につながる各年齢におけるめざす姿を紹介しており、その姿に向けて、保育を展開していくうえでの活動事例や、幼児教育・保育と小学校入門期の教育内容や指導方法等の学びのつながりも示しています。

子どもの遊びは、成長や発達にとって重要な体験がたくさん含まれている幼児期にふさわしい学びであり、幼児期は、その学びの質を高めていくことが重要です。また、小学校入門期は、幼児教育・保育の成果を踏まえ、学校生活への適応を進めていくことが求められ、子どもの発達や学びの連続性を踏まえながら教育を行うことが、義務教育及びその後の教育の基盤をつくることにつながります。

このカリキュラムが、教職員の幼児教育・保育と小学校教育の相互理解を進め、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続と幼児教育・保育及び小学校教育の充実に向け、積極的に活用されることを心から願っています。

最後になりましたが、本カリキュラムの作成にあたり、御尽力いただきました皆様に、深く感謝申し上げます。

平成26年3月

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一



目次

第Ⅰ章	開発にあたって	1
第Ⅱ章	『鳥取県幼保小連携カリキュラム』の活用に向けて	3
1	『鳥取県幼保小連携カリキュラム』のめざすもの ～「遊びきる子ども」～	3
2	『鳥取県幼保小連携カリキュラム』の考え方	4
3	『鳥取県幼保小連携カリキュラム』の活用	5
第Ⅲ章	『鳥取県幼保小連携カリキュラム』の実際	6
1	『鳥取県幼保小連携カリキュラム』の構成	6
2	『鳥取県幼保小連携カリキュラム』の見方	7
3	各年齢のカリキュラム	10
(1)	0歳児	10
(2)	1歳児	11
(3)	2歳児	12
(4)	3歳児	13
(5)	4歳児	15
(6)	5歳児	17
(7)	接続期	19
第Ⅳ章	活動事例	21
1	活動事例の見方	21
2	各年齢の活動事例	22
(1)	0歳児	22
(2)	1歳児	26
(3)	2歳児	30
(4)	3歳児	34
(5)	4歳児	38
(6)	5歳児	42
第Ⅴ章	スタートカリキュラム	46
1	スタートカリキュラムの編成	46
2	スタートカリキュラムの例	48
資料編		51
○	『鳥取県幼保小連携カリキュラム』開発委員会	52
○	『幼児教育パワーアップ事業』実践園	52
○	「遊びきる子ども」を育む 幼児教育・保育の参考となる刊行物など	53

各年齢におけるめざす
姿を示しています。



幼児の発達や興味・関
心、地域の特色などにあ
わせて、紹介している活
動事例を工夫して活用し
てください。



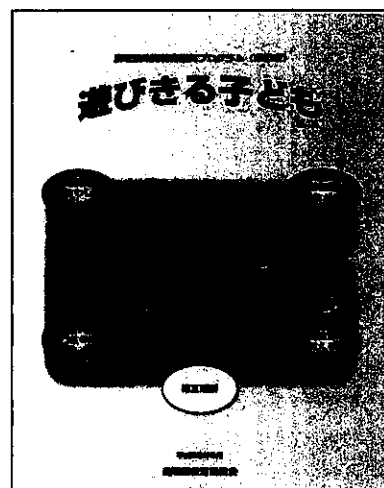
第 I 章 開発にあたって

鳥取県教育委員会では、平成 25 年 3 月に、今後の幼児教育の充実に向けた方向性や取組を示す「鳥取県幼児教育振興プログラム（改訂版）」を策定し、「遊びきる子ども」をめざした取組を、平成 25 年度から 5 年間を目途に推進していくこととしました。

『鳥取県幼保小連携カリキュラム』は、その取組の 1 つで

「鳥取県幼児教育振興プログラム（改訂版）」
（平成 25 年 3 月策定）

<http://www.pref.tottori.lg.jp/81103.htm>



昨年度、県内の全ての幼稚園・保育所・認定こども園（以下「幼稚園等」という）、小学校を対象として、「幼児教育調査」を実施したところ、平成 22 年～24 年の各年において、約 2 割の小学校でいわゆる「小 1 プロブレム」(*) の状況があり、円滑な接続に向けて次の 2 つの視点から取組を改善、充実させていくことが必要であることがわかりました。

「幼児教育調査」（平成 24 年 5 月実施）

<http://www.pref.tottori.lg.jp/92797.htm>

【幼児教育・保育と小学校教育の相互理解】

幼児教育・保育関係者と小学校教育関係者が教育内容や指導方法等の学びのつながりについて、相互理解を図ることが大切です。そして、子どもの「育ち」や「学び」の姿を意識しながら、連続性・一貫性のある幼児教育・保育、小学校教育を行うことが求められています。

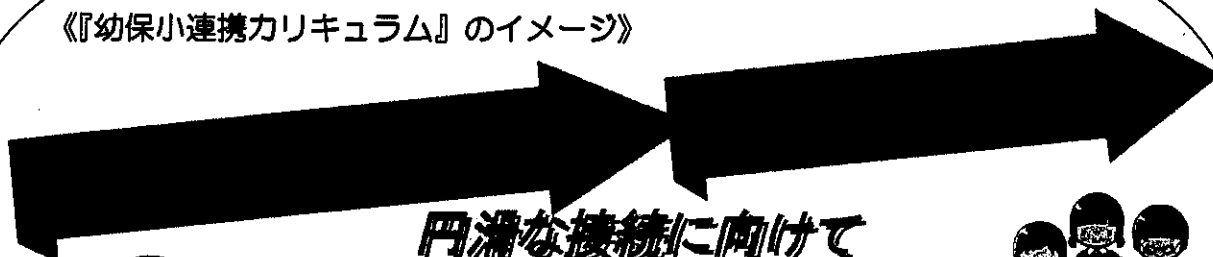
【幼児教育・保育、小学校教育の充実】

子どもの発達や学びの連続性を踏まえて幼稚園等と小学校がそれぞれの役割を果たすことが必要です。幼稚園等では、幼児期にふさわしい遊びや生活のなかで、各年齢におけるめざす姿を明確にして取り組むことが、子どもたちが「生きる力」を身に付けることにつながります。小学校では、幼児教育・保育の成果を踏まえ、児童の発達の特性や各教科等の学習内容等から効果的な指導を展開していくことが、学校生活への適応につながります。

そこで、上記の取組の充実を図るために、幼児教育・保育と小学校 1 年生入門期の教育内容や指導方法等の学びのつながりをまとめた『鳥取県幼保小連携カリキュラム』を開発しました。

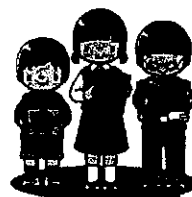
各市町村においては、「鳥取県幼児教育振興プログラム（改訂版）」と、これに基づく『鳥取県幼保小連携カリキュラム』を参考に、地域の実情に応じて、連携体制の整備や、幼児教育に関する政策プログラムの策定及び改訂を進め、幼児教育・保育と小学校教育の相互理解及び充実に努めることが求められています。

《『幼保小連携カリキュラム』のイメージ》



円滑な接続に向けて

- * 幼児教育・保育と小学校教育の相互理解
- * 幼児教育・保育、小学校教育の充実



幼稚園・保育所・認定こども園

接続期

小学校

0歳

1歳

2歳

3歳

4歳

5歳

1年生
入門期

児童期

2年生～6年

各年齢のカリキュラム
「めざす子どもの姿」

学びの基礎力を育成するための「三つの自立」、「学力の三つの要素」

幼児期の終わり～児童期（低学年）

<三つの自立>

- ・ 学びの自立
- ・ 生活上の自立
- ・ 精神的な自立

連続性 ・ 一貫性のある教育

「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」
（平成22年11月11日）

* 接続期とは・・・学びの基礎力の育成期間である幼児期と児童期の教育双方が接続を意識する期間。

（このカリキュラムでは、「5歳児後半から小学校1年生夏休み前まで」としています。）

* 入門期とは・・・小学校に入学したばかりの児童が、学校生活や学習のスタイルに慣れるための期間。

（このカリキュラムでは、「小学校入学から小学校1年生夏休み前まで」としています。）

* 学校生活への不適応（小1プロブレム）とは・・・

小学校に入学したばかりの1年生が、授業中に落ち着いて話を聞くことができず騒いだり勝手に歩き回ったり、注意されると感情的になったりするなど、学校生活に適應できない状態が続き、学級としての学習規律が成立しない状態へと拡大していく。これが入学当初から1か月以上継続する。

第二章 『鳥取県幼保小連携カリキュラム』の活用に向けて

1 『鳥取県幼保小連携カリキュラム』のめざすもの ～「遊びきる子ども」～

『鳥取県幼保小連携カリキュラム』のめざすものは、「遊びきる子ども」です。幼児教育・保育の充実は、「遊びきる子ども」を育てるとともに小学校への円滑な接続にもつながります。「鳥取県幼児教育振興プログラム(改訂版)」(P.11)の「遊びきる子ども」を参考にして、より充実した遊びを展開することが求められます。

「遊びきる子ども」

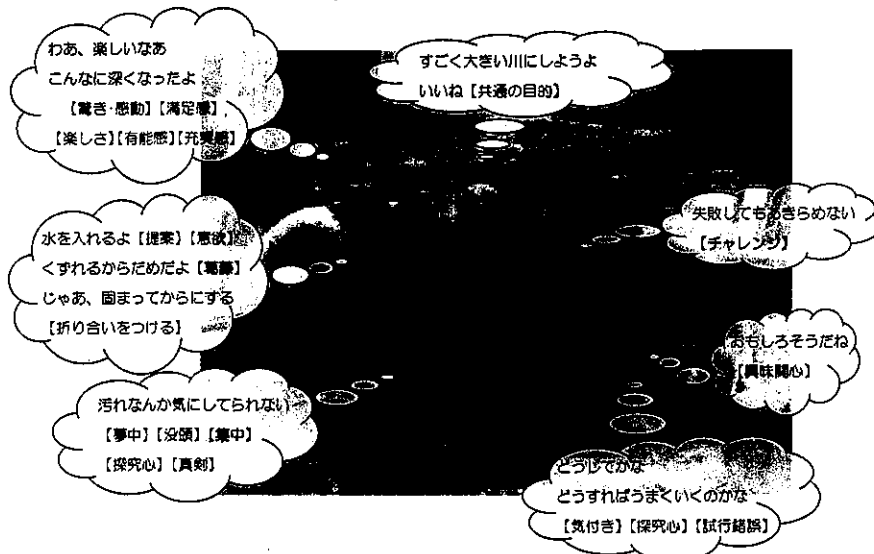
本県では、「遊びきる子ども」をめざす幼児の姿として掲げました。

遊びと生活の中で、心も頭も体も一緒に育つのが乳幼児期の特徴です。友達との集団生活を通して、「遊びきる子ども」を育てていくことをめざします。

遊びの楽しさは、子どもが**遊びたい**という意欲から、自ら**遊びだす**ことで始まります。そして、**遊びこむ**ことで、遊びの楽しさやおもしろさが深まったり広がったりしていきます。十分に遊びこむことが**遊びきる**ことにつながり、遊びきることで心地よい満足感や達成感を味わっていくのです。この満足感や達成感といった自己充実感が自信となり、新たな遊びを生み出すエネルギーになるのです。このエネルギーが育つことで気持ちの切り替えにつながるのです。

そのため、幼稚園・保育所・認定こども園では、友達とたっぷり遊ぶ時間と場を保障し、心ゆくまで遊びきることができる環境を構成することが必要となります。

また、幼児教育・保育の専門家である保育者が、主体的な遊びを中心とした乳幼児期にふさわしい生活をつくっていくことが重要です。



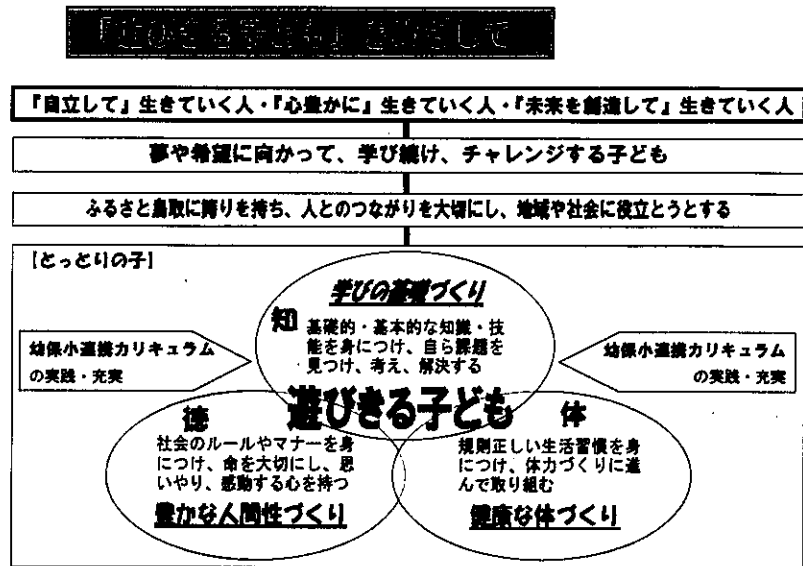
POINT

「遊びこむ」とは、遊びに集中する中で、その子らしい発想が生かされて遊びが深まったり広がったりしながら継続して展開されている状態のことをいいます。そこには、時間・空間・仲間の三つの間が必要です。我を忘れて「遊びこむ」ほどの楽しさを知ることが「遊びきる」ことにつながります。「遊びきる」とは、一人一人が自己発揮をし、様々な葛藤体験を乗り越えながら友達とかかわって十分に遊びこみ、満足感や達成感を味わうことができている状態であるととらえられます。

「鳥取県幼児教育振興プログラム(改訂版)」(平成25年3月策定)
<http://www.pref.tottori.lg.jp/81103.htm>

2 『鳥取県幼保小連携カリキュラム』の考え方

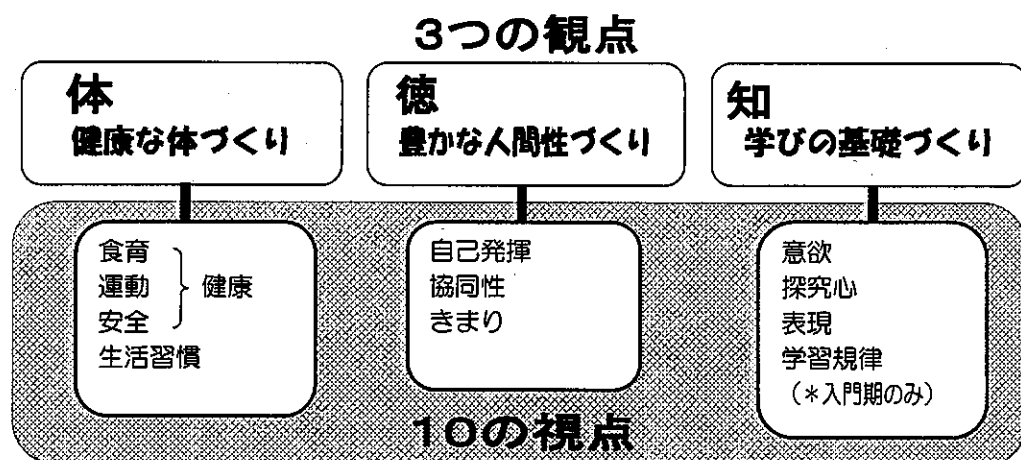
めざす幼児の姿である「遊びきる子ども」は、鳥取県のめざす人間像である『自立して』生きていく人・『心豊かに』生きていく人・『未来を創造して』生きていく人へとつながっています。



『鳥取県幼保小連携カリキュラム』では、「遊びきる子ども」につながる各年齢におけるめざす姿を示しています。

それぞれの年齢でめざす姿を考えていくにあたり、体：「生活（健康な体づくり）」・徳：「人とのかわり（豊かな人間性づくり）」・知：「興味・関心（学びの基礎づくり）」の3つの観点を設けました。これは、「生きる力」を支える調和のとれた育みを重視しながら、小学校と同様に「知・徳・体」でとらえることにより、つながりを意識しやすくするためです。

さらに、3つの観点を発達の特徴から10の視点（*0歳児・1歳児は9の視点、入門期は11の視点）に分け、めざす姿を示すこととしました。これは、子どもたちの「育ち」や「学び」を理解するうえで、重要な視点です。



3 『鳥取県幼保小連携カリキュラム』の活用

『鳥取県幼保小連携カリキュラム』は、幼稚園等において以下のように活用することができます。



また、幼稚園等と小学校関係者の相互理解や幼児教育・保育、小学校教育の充実に向けて、自園・自校の子どもの実態に合わせて、本カリキュラムを工夫して活用することができます。

例えば、次のような活用の場面が考えられます。

【活用の場面】

- ・乳幼児・児童の交流活動
- ・教職員合同研修会
- ・小学校教員の保育体験
- ・合同研究保育
- ・幼稚園教員・保育士の授業体験
- ・幼稚園等と小学校の連絡会 など

第三章 『鳥取県幼保小連携カリキュラム』の実際

1 『鳥取県幼保小連携カリキュラム』の構成

『鳥取県幼保小連携カリキュラム』は、各年齢におけるめざす姿を下表のような観点・視点で示しています。

【10の視点と内容】（*0歳児・1歳児は9の視点、入門期は11の視点）

10の視点		内容	
観点	視点	0歳児～2歳児	3歳児～入門期
健康 いげんきいっぱい！	食育	食べることを楽しむこと 食べ物への興味・関心 食べ方・マナー	食べることを楽しむこと 食べ物への興味・関心 食べ方・マナー ※楽しむことがベースとなる
	運動	体を動かすことを楽しむこと 多様な動き 微細運動	体を動かすことを楽しむこと 多様な動き 用具を操作する動き(用具:道具、道具を含む)
	*安全	生命の保持 情緒の安定	安心 安全・危険回避
	生活習慣 ～みにつけよう～	生活習慣(食事・睡眠・排泄・着脱・清潔) 生活のリズム あいさつ	生活習慣(食事・睡眠・排泄・着脱・清潔) 生活の見通し あいさつ
人とかかわり (豊かな人間性づくり)	自己発揮 ～みて、きいて～	遊びの姿・子ども主体 気持ちを伝えること 環境へのかかわり(人・もの・こと)	遊びの姿・子ども主体 動きや言葉で伝えること(見る・聞く) 環境へのかかわり(人・もの・こと)
	協同性 ～いっしょにやろうよ～	人とかかわり(保育者や友達) (基本的な信頼感) 人とのつながり ※並行遊びの段階	人とかかわり(保育者や友達) (基本的な信頼感) 人とのつながり 協同性な遊び ※イメージの共有化
	きまり ～たのしいね～	気付き・心情・態度・理解 行動・判断 生活の中で身に付くもの	気付き・心情・態度・理解 行動・判断 遊びを楽しむルール・きまり
	意欲 ～おもしろそうだね～	環境への興味・関心 遊びに向かおうとする姿 環境にかかわろうとする姿	環境への興味・関心 遊びに向かおうとする姿 環境にかかわろうとする姿
	探究心 ～どうしてかな～	気付き・発見・驚き・疑問 試行錯誤	気付き・発見・驚き・疑問 試行錯誤 思考力
	表現 ～つたえたいな しりたいな～	豊かな言語感覚・想像力 身体表現 製作活動・音楽	豊かな言語感覚・想像力 身体表現 製作活動・音楽
	*学習規律 ～さあ、がんばろう～		学習のきまり 学習用具の使い方 発表の仕方 家庭学習

「0歳児～2歳児」「3歳児～入門期」で、視点ごとの内容を変えています。
その内容は、年齢を追ってつながっています。

「0歳児・1歳児」は、「安全」の視点を除いた9の視点で示しています。

入門期は、「学習規律」の視点を加え、11の視点で示しています。

視点の内容は重なり合っており、総合的に指導することが大切です。
また、各年齢のつながりを考えながら、見通しをもって指導していくことが必要です。

2 『鳥取県幼保小連携カリキュラム』の見方

『鳥取県幼保小連携カリキュラム』は、0歳から2歳までの3歳未満児と3歳から5歳までの3歳以上児、接続期で様式を変えています。

《3歳未満児のカリキュラム》

3歳未満児は、月齢や入所時期により、特に心身の発育・発達の差が顕著であると同時に大きな個人差が見られます。そのため、一人一人に応じた保育を行っていく必要があります。したがって、各年齢におけるめざす姿を年間で大きくとらえて示しています。

観点	視点	
健康 いげんきいっぱい	食育	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい雰囲気の中で自分で食べようとする。 ・さまざまな食材や調理形態（食品の種類・大きさ・固さ・量など）に慣れる。 ・スプーン、フォークを使って一人で食べようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・歩く、登る、降りるなど歩行が安定し、遊びを楽しむ。 ・興味のある遊びを繰り返し楽しむ。 ・ボールを蹴ったり、転がしたり、投げたりして保育者と一緒に遊ぶ。 ・全身や手指を使う遊びを楽しむ。（つまむ・めくる・丸める など）
生活習慣 ～みにつけよう～		<ul style="list-style-type: none"> ・園生活のリズムに慣れ、安心して生活する。 ・保育者と一緒に簡単な身の回りのことをしようとする。（食事・睡眠・排泄・着脱・清潔・片付け など） ・保育者と一緒に片付けをしようとする。 ・保育者と一緒にあいさつをしようとする。
人とかかわり（豊かな人間性づくり）	自己発揮 ～みて、まいて～	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して自分の気持ちや欲求を表す。 ・保育者や友達に簡単な言葉を使って気持ちを伝えようとする。
	協同性 ～いっしょにやろうよ～	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と一緒に遊ぶ。 ・保育者や友達がしていることに興味をもつ。
	きまり ～たのしいね～	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の表情や「待って」を待つ。 ・自分と友達を持ち物や遊び道具を共有する。
	意欲 ～おもしろそうだね～	<ul style="list-style-type: none"> ・探索を楽しみ、興味のある手作り玩具や身近なものを遊ぶ。 ・さまざまな素材を使って遊ぶ。
	探求心 ～どうしてかな～	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然や小動物を見たり、触れたりして好奇心をもつ。 ・さまざまなものに興味・関心をもって、身の回りのものに直接触れたり使ったりする。
表現 ～つたえたいな～		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と簡単な言葉のやりとりを楽しむ。 ・保育者や友達と一緒に歌ったり手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ。 ・絵本を読んでもらうことを楽しんだり、好きな絵本を一人で見たりする。 ・サインペンやクレパスでなぐり描きを楽しむ。

「10の視点」の内容に沿ってめざす姿を示しています。（0歳児、1歳児は、「安全」を除く9の視点）
これは、各視点において重点化を図ったものです。

活動事例があることを示しています。
この場合、「自己発揮」の視点の事例を「活動事例3」として、第IV章で紹介しています。

各年齢で最終的にめざす姿を示しています。

《3歳以上児のカリキュラム》

3歳以上児は、個を大切にする保育を基盤としながら、集団の生活のなかでの育ちを保障していきます。そのため、一人一人のよさが生かされる集団づくりを意識することが必要です。したがって、めざす姿をより具体的に示すため、1年間を4期に分けて、各期におけるめざす姿を示しています。

「10の視点」の内容に沿ってめざす姿を示しています。
これは、各視点において重点化を図ったものです。

視点	視点	I 期	II 期	III 期	IV 期
健康 5げんきいっぱい	食育	・食育のマナーに気を付け、友達や保育者と一緒に楽しく食事をする。 ・食べ残しや食べかすの処理を学び、進んで食べようとする。	・食べ物を収穫したり調理したりして食べる喜びを味わう。 ・季節の食べ物に興味をもち、食べ物には旬があることを知る。	・食料や食器を使用して他人へ感謝し、身の大切さに関心をもつ。 ・給食時間内に進んで食べる。	
	運動	・戸外で、進んで体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・友達と一緒にルールのある遊びや全身を使った遊びを楽しむ。	・季節ならではのさまざまな遊びを通して、思いきり活動する楽しさを味わう。 ・自分なりのめあてをもち、全身を使った遊びを楽しむ。	・友達と積極的に体を動かす遊びに取り組み、思いきり活動し、ルールを守ってみんなで楽しむ。 ・自分なりのめあてをもち、全身を使った遊びを楽しむ。	・危険な遊び方や場所に関心をもつ、自分で判断して安全に行動しようとする。
	安全	・園生活で安全に通うための自覚をもち、進んで守る。 ・道具や用具、遊びに使われる場所などの安全に関心を持って遊ぶ。	・災害時の危険について知り、安全に関心をもつ。	・危険な遊びや場所に関心をもつ、自分で判断して安全に行動しようとする。	・危険な遊び方や場所に関心をもつ、自分で判断して安全に行動しようとする。
生活習慣 ～みにつけよう～		・早寝・早起き・朝ごはなどの基本的な生活習慣を身に付ける。 ・生活の仕方や1日の流れを知り、年長児として望ましい生活習慣を身に付ける。 ・進んであいさつや返事をする。	・友達に使われる大切に扱って、自分の体に気をもつ。	・自分の考えや気持ちを伝えることができるようになる。 ・友達と協力して活動しようとする。	・自分の考えや気持ちを伝えることができるようになる。 ・友達と協力して活動しようとする。
	自己表現 ～みて、きいて～	・年長児としての自覚をもち、保育者や友達と一緒に意欲的に生活をする。 ・自分の気持ちを相手にわかるように言葉で伝えようとする。	・自分のことを認めたり経験を通して自信をもって行動する。 ・自分なりのめあてをもち、挑戦しようとする。	・友達と十分かわり、自分の力を発揮し、遊びを進めていく達成感を味わう。 ・友達の考えを聞いたり、自分の考えや発見などを話したりして、伝えるうれしさを感じる。	・クラスや園年長の友達とみんなで活動する楽しさや、友達の進歩を感じながら自分の力を発揮する。
	協同性 ～いっしょにやろう～	・年長になったことを喜び、友達と一緒に遊ぶ楽しさや友達とのつながりを感じながら生活する。 ・友達と楽しく生活するなかで、きまりの大切さに関心をもつ、守ろうとする。	・進歩や感情の行き違いのなかで、相手の気持ちや考えをわかろうとする。 ・友達と意見を出し合ったり工夫することで、遊びがより面白くなることを感じる。	・自分の考えや相手の考えの違いに関心をもつ、折り合いをつけて遊びを進めようとする。 ・友達と役割を分担し、互いに考えを出し合い協力して遊びや生活を進める。 ・グループの友達と共通の目的に向けて遊ぶなかで、一緒に進めていく楽しさややり遂げの達成感を味わう。	・自分の感じたことや考えたことを友達にわかるように伝えるとともに、友達の話を聞き、受け止める。 ・小学校との交流などを通して、教師への期待をもち意欲的に生活する。
人とかかわり (豊かな人間性づくり)	きまり ～たのしいね～	・友達と楽しく生活するなかで、きまりの大切さに関心をもつ、守ろうとする。 ・友達と簡単なルールを一緒に作り出し、ルールを意欲的に守ろうとする。	・生活に必要なきまりについて自分たちで考え、理解して、行動しようとする。	・自分たちできまりを作ったり、遊びを考えたりしてみんなで楽しむ。	・今何をすべきかなどを自分なりに判断し、状況に応じた行動をする。 ・友達と一緒に考えたルールを守りながら、自分たちで遊びを進める。
	意欲 ～おもしろそうだ～	・身近に関心のあることや遊び、遊びを意欲的に進める。 ・身近な動物や自然現象に興味や関心をもつ、遊びのなかに関心をもつようとする。	・自分なりのめあてをもち、いろいろな遊びに繰り返し取り組む。 ・身近にあるいろいろな素材や材料の使い方がわかり、遊びに生かそうとする。	・戸外遊びに意欲的に取り組み、友達と一緒に遊びを進めようとする。 ・身近な自然や動物に関心をもつ、季節の移り変わりに関心をもつ。	・小学校との交流などを通して、教師への期待をもち意欲的に生活する。
	探究心 ～どうしてかな～	・身近に関心のあることや遊び、遊びを意欲的に進める。 ・身近な動物や自然現象に興味や関心をもつ、遊びのなかに関心をもつようとする。	・身近な自然や動物に関心をもつ、季節の移り変わりに関心をもつ。	・身近な自然や動物に関心をもつ、季節の移り変わりに関心をもつ。	・身近な環境に自ら関心をもつ、考えたり試したり工夫したりして遊ぶ。 ・失敗してもあきらめず、遊びを続けたり繰り返したりする。
表現 ～つたえたいな～	・身近に関心のあることや遊び、遊びを意欲的に進める。 ・身近な動物や自然現象に興味や関心をもつ、遊びのなかに関心をもつようとする。	・身近な自然や動物に関心をもつ、季節の移り変わりに関心をもつ。	・身近な自然や動物に関心をもつ、季節の移り変わりに関心をもつ。	・身近な環境に自ら関心をもつ、考えたり試したり工夫したりして遊ぶ。 ・失敗してもあきらめず、遊びを続けたり繰り返したりする。	

最終的なめざす姿を見通し、意識しながら保育を展開することができます。

矢印は、その期から矢印の終わりの期までのめざす姿であることを示しています。

活動事例があることを示しています。
この場合、「探究心」の視点の事例を「活動事例2」として、第IV章で紹介しています。

《接続期のカリキュラム》

遊びを中心とした幼児期の教育と各教科等の学習を行う児童期の教育では、大きな環境の変化があります。しかし、子どもの発達や学びは連続しています。円滑に接続していくため、連携を図るようにすることが求められます。

「11の視点」の内容に沿ってめざす姿を示しています。

領域	めざす姿	めざす姿の解説	めざす姿の解説
生活習慣	食育	食事のマナーに気を付け、食卓や食育等と一緒に楽しく食事をする。 食べ残しや飲み残しを減らし、進んで食べようとする。 食器類を大切に扱い、汚らわしい食べ物を残さず食べる習慣を身に付ける。 食卓や食育等を通して、食の大切さや健康の大切さを学ぶ。	・食卓に慣れ、食育や食育等と一緒に楽しく食事をする。 ・食べ残しや飲み残しを減らし、進んで食べようとする。 ・食器類を大切に扱い、汚らわしい食べ物を残さず食べる習慣を身に付ける。 ・食卓や食育等を通して、食の大切さや健康の大切さを学ぶ。
	掃除	戸外で、進んで掃除機をかけて清潔な環境を創出する。 掃除機や掃除機を上手に使う習慣を身に付け、思いやりを持って掃除機を使う。 掃除機を上手に使う習慣を身に付け、思いやりを持って掃除機を使う。 掃除機を上手に使う習慣を身に付け、思いやりを持って掃除機を使う。	・掃除機を上手に使う習慣を身に付け、思いやりを持って掃除機を使う。 ・掃除機を上手に使う習慣を身に付け、思いやりを持って掃除機を使う。 ・掃除機を上手に使う習慣を身に付け、思いやりを持って掃除機を使う。
	安全	ルールのおおむねの意義や重要性を身に付け、意図して行動しようとする。	・ルールのおおむねの意義や重要性を身に付け、意図して行動しようとする。 ・ルールのおおむねの意義や重要性を身に付け、意図して行動しようとする。
身体運動	生活習慣	・生活習慣や食育などの基本的な生活習慣を身に付ける。 ・生活習慣や食育などの基本的な生活習慣を身に付ける。 ・生活習慣や食育などの基本的な生活習慣を身に付ける。	・生活習慣や食育などの基本的な生活習慣を身に付ける。 ・生活習慣や食育などの基本的な生活習慣を身に付ける。 ・生活習慣や食育などの基本的な生活習慣を身に付ける。
	自己表現	自分のことを認めてもらう経験を積み重ねて行動する。 友達と十分かかわり、自分の力を発揮し、喜びを分かち合おうとする。 友達の考えを聞いて、自分の考えや考え方を伝えたり、伝えられることを楽しむ。	・自分のやりたい遊びに夢中になる。 ・クラスや園庭での友達とみんなまで活動する楽しさを知り、友達との関わりを大切にする。 ・自分の考えや考え方を伝えたり、伝えられることを楽しむ。
	運動遊び	自分の考えや考え方の違いに関わり、思いやりを持って遊びを止めようとする。 友達と十分かかわり、自分の力を発揮し、喜びを分かち合おうとする。 友達の考えを聞いて、自分の考えや考え方を伝えたり、伝えられることを楽しむ。	・友達の考えや考え方の違いに関わり、思いやりを持って遊びを止めようとする。 ・友達の考えや考え方の違いに関わり、思いやりを持って遊びを止めようとする。 ・友達の考えや考え方の違いに関わり、思いやりを持って遊びを止めようとする。
社会	生活習慣	自分の考えや考え方の違いに関わり、思いやりを持って遊びを止めようとする。 友達と十分かかわり、自分の力を発揮し、喜びを分かち合おうとする。 友達の考えを聞いて、自分の考えや考え方を伝えたり、伝えられることを楽しむ。	・友達の考えや考え方の違いに関わり、思いやりを持って遊びを止めようとする。 ・友達の考えや考え方の違いに関わり、思いやりを持って遊びを止めようとする。 ・友達の考えや考え方の違いに関わり、思いやりを持って遊びを止めようとする。
	自己表現	自分のことを認めてもらう経験を積み重ねて行動する。 友達と十分かかわり、自分の力を発揮し、喜びを分かち合おうとする。 友達の考えを聞いて、自分の考えや考え方を伝えたり、伝えられることを楽しむ。	・自分のやりたい遊びに夢中になる。 ・クラスや園庭での友達とみんなまで活動する楽しさを知り、友達との関わりを大切にする。 ・自分の考えや考え方を伝えたり、伝えられることを楽しむ。
	運動遊び	自分の考えや考え方の違いに関わり、思いやりを持って遊びを止めようとする。 友達と十分かかわり、自分の力を発揮し、喜びを分かち合おうとする。 友達の考えを聞いて、自分の考えや考え方を伝えたり、伝えられることを楽しむ。	・友達の考えや考え方の違いに関わり、思いやりを持って遊びを止めようとする。 ・友達の考えや考え方の違いに関わり、思いやりを持って遊びを止めようとする。 ・友達の考えや考え方の違いに関わり、思いやりを持って遊びを止めようとする。

5歳児後半のめざす姿と入門期のめざす姿を並べて示しています。

入門期を「4・5月」「6・7月」に分け、めざす子どもの姿を示しています。

教科学習が始まる入門期は、「学習規律」の視点を加えて示しています。

小学校との連携

幼稚園では計画的に環境を構成し、遊びを中心とした生活を通して体験を重ね、一人一人に応じた総合的な指導を行っている。一方、小学校では、時間割に基づき、各教科の内容を教科書などの教材を用いて学習している。このように、幼稚園と小学校では、子どもの生活や教育方法が異なる。このような生活の変化に子どもが対応できるようになっていくことも学びの一つとしてとらえ、教師は適切な指導を行うことが必要である。しかし、生活の変化が大きすぎると、子どもはその生活の変化にうまく適応できないこともある。子どもは小学校入学と同時に突然違った存在になるのではなく、子どもの発達と学びは連続していることから、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続のため、連携を図るようにすることが大切である。

「幼稚園教育要領解説」(平成20年10月 文部科学省)より

3 各年齢のカリキュラム

(1) 0歳児

鳥取県のめざす幼児の姿 遊びきる子ども

観点	視点	
生活（日常生活づくり）	健康 いげんきいっぱい	食育 <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事に対する意欲が高まる。 ・ 手づかみでものを食べようとしたり、両手でコップを持って飲んだりする。
		運動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で体を動かすことを喜ぶ。 ・ つかまり立ちや伝い歩きなどをしようとする。 ・ ものを投げたり、置いたり、手渡したりしようとする。 ・ 触れる、見る、聞くなどの経験を通して、感覚遊びを楽しむ。
	生活習慣 ~みにつけよう~	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事・睡眠・排せつ・遊びのリズムが安定し、心地よい生活をする。
人のかかわり（豊かな人間性づくり）	自己発揮 ~みて、きいて~	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「いやいや」や「バイバイ」をするなど、気持ちを行動で表現する。 ・ ほめてもらおうと喜んだり、叱られたことがわかったりようになる。
	協同性 ~いっしょにやろうよ~	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手のしていることに興味をもち、自分もしてみようとする。 ・ 保育者からの「ちょうだい」「おいで」の呼びかけに応えようとする。
	きまり ~たのしいね~	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大人の表情を理解しようとしたり、要求された行動をしようとしたりする。
	意欲 ~おもしろそうだな~	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「いないいないばあ」などをして、保育者との応答的なかかわりを楽しむ。 ・ 身振りをまねたり、声を出したりするなど、自分からかわろうとするようになる。 ・ 安全で活動しやすい環境で、手、指、足腰を使って探索活動をする。 ・ 自分でやりたいという気持ちが芽生え、全身や手を動かして身近なものへかかわろうとする。 ・ 散歩に出かけたり、自然の生き物に触れたりして楽しむ。
探究心 ~どうしてかな~		
	表現 ~つたえたいな しりたいな~	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の意思や欲求を身振りや表情で伝える。 ・ 音楽に合わせて体を動かす。 ・ 絵本のさし絵やお話に興味をもつようになる。

1歳児のカリキュラムへ

活動事例 1 ~ 4 (第IV章で紹介)

(2) 1歳児

鳥取県のめざす幼児の姿 **遊びきる子ども**

観点	視点	
生活習慣（日常生活を過ごす）	健康 いげんきいっぱい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しい雰囲気の中で自分で食べようとする。 ・ さまざまな食材や調理形態（食品の種類・大きさ・固さ・量など）に慣れる。 ・ スプーン、フォークを使って一人で食べようとする。
	食育	
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩く、登る、降りるなど歩行が安定し、遊びを楽しむ。 ・ 興味のある遊びを繰り返し楽しむ。 ・ ボールを蹴ったり、転がしたり、投げたりして保育者と一緒に遊ぶ。 ・ 全身や手指を使う遊びを楽しむ。（つまむ・めくる・丸める など）
	生活習慣 ～みにつけよう～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園生活のリズムに慣れ、安心して生活する。 ・ 保育者と一緒に簡単な身の回りのことをしようとする。（食事・睡眠・排泄・着脱・清潔・片付け など） ・ 保育者と一緒に片付けをしようとする。 ・ 保育者と一緒にあいさつをしようとする。
人とのかかわり（豊かな人間性づくり）	自己発揮 ～みて、きいて～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して自分の気持ちや欲求を表す。 ・ 保育者や友達に簡単な言葉を使って気持ちを伝えようとする。
	協同性 ～いっしょにやろうよ～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者や友達と一緒にいることを喜ぶ。 ・ 保育者や友達がしていることをまねたり、友達と同じことをしたりして楽しむ。
	きまり ～たのしいね～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者の表情や「待ってね」「いいよ」などの言葉かけにより、行動しようとする。 ・ 自分と友達の持ち物や場所がわかる。
	意欲 ～おもしろそうだ～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 探索を楽しみ、興味のあることをしてみようとする。 ・ 手作り玩具や身近なものに興味をもってかかわる。 ・ さまざまな素材を使って描いたり、ちぎったりして遊び、できたもので見立て遊びをしようとする。
	探究心 ～どうしてかな～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な自然や小動物を見たり、触れたりして好奇心をもつ。 ・ さまざまなものに興味・関心をもって、身の回りのものに直接触れたり使ったりする。
	表現 ～つたえたいな しりたいな～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者や友達と簡単な言葉のやりとりを楽しむ。 ・ 保育者や友達と一緒に歌ったり手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊ぶ。 ・ 絵本を読んでもらうことを楽しんだり、好きな絵本を一人で見たりする。 ・ サインペンやクレパスでなぐり描きを楽しむ。

2歳児のカリキュラムへ

活動事例 1～4 (第IV章で紹介)

(3) 2歳児

鳥取県のめざす幼児の姿 **遊びきる子ども**

観点	視点	
健康 いげんきいっぱい	食育	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい雰囲気の中で、友達と一緒に食べる楽しさを味わう。 ・さまざまな食べ物に関心をもち、苦手なものでも食べてみようとする。 ・箸や食器を持って、こぼさないように食べようとする。 ・食べることを喜び、よくかんで食べようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外に出かけることを喜び、体を十分に動かして遊ぶ。 ・遊びのなかで、いろいろな動きを楽しむ。 （跳び下りる・ころがる・ぶら下がる・坂道やでこぼこ道を歩く など） ・腕、手、指先などを使った遊びを楽しむ。 （砂・泥・水・粘土・クレパス・はさみ・のり・ボタン・パズル・ひも・新聞紙 など）
	安全	<ul style="list-style-type: none"> ・体の不調を、言葉や態度で保育者に伝えようとする。 ・保育者の言葉かけで危険なことに気付く。
人とかかわり （豊かな人間性づくり）	生活習慣 ～みにつけよう～	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に見守られながら、自分で衣服の着脱や片付けをしようとする。 ・尿意、便意を感じて自分からトイレに行き、排泄の後始末を自分でしようとする。 ・自分の持ち物や場所、生活の仕方などがわかり、保育者と一緒にしようとする。 ・あいさつや返事をしようとする。 （「おはよう」「こんにちは」「さようなら」「いただきます」「ごちそうさま」 など）
	自己発揮 ～みて、きいて～	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたい遊びを見つけ、夢中になって遊ぶ。 ・「自分で」と自己主張し、何でも自分でしようとする。 ・保育者や友達に自分のしたいことやしてほしいこと、知っていることを自分なりに伝えようとする。 ・簡単な手伝いをし、保育者にほめてもらうことを喜ぶ。
	協同性 ～いっしょにやろうよ～	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のしている遊びをまねて同じことをしたり、一緒に活動したりすることを喜ぶ。 ・「あそぼう」「いいよ」「ありがとう」など、友達を受け入れたり、受け入れられながら遊ぶ。 ・仲のよい友達と言葉のやりとりを楽しみながら、見立て遊び・つもり遊び・ごっこ遊びを楽しむ。
	きまり ～たのしいね～	<ul style="list-style-type: none"> ・順番や交代などを知り、保育者や友達と簡単なルールのある遊びを楽しむ。 ・やってよいこと・よくないことが少しずつわかり、守ろうとする。 ・遊びや生活のなかにきまりがあることに気付く。 ・身近な玩具や生活用具を大切に使う。
	意欲 ～おもしろそうだな～	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然物や素材に興味をもち、手にとって遊ぶことを楽しむ。 ・行動範囲を広げ、探索活動を盛んに行い、保育者と一緒に気付きや発見を喜ぶ。 ・新しい遊びや年上の友達がしていることに興味をもち、まねてみようとする。
	探究心 ～どうしてかな～	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然物や素材を見たり、触ったり、集めたりして遊ぶことを楽しむ。 ・身の回りのことに興味をもち、「これなあに」「どうして」と保育者に聞く。 ・身の回りにあるものの形や大きさ、長さなどに興味をもつ。
	表現 ～つたえたいな しりたいな～	<ul style="list-style-type: none"> ・美しいもの、不思議なものなどに会って心を動かし、自分なりに表現することを楽しむ。 ・思ったことや感じたことを自分なりの言葉で伝えたり、保育者や友達とのやりとりを楽しんだりする。 ・保育者や友達と一緒に歌ったり、リズムに合わせて体を動かしたりして、自分なりの表現を楽しむ。 ・絵本やお話などを読んでもらうことを楽しむ。 ・保育者と一緒に、のり、はさみ、粘土などの材料や用具を使い、作って遊ぶことを楽しむ。

3歳児のカリキュラムへ

活動事例 1～4 (第IV章で紹介)

(4) 3歳児

鳥取県のめざす幼児の姿

遊びきる子ども

観点	視点	4月 → 5月 → 6月 →	
		I期	II期
生活（「遊ぶ」をくり返す）	健康 うげんきいっぱい	食育 <ul style="list-style-type: none"> 友達や保育者と一緒に楽しく食事をする。 栽培活動や調理員との触れ合いなどを通して、身近な食べ物に興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 箸を使って、こぼさず食べようとする。
		運動 <ul style="list-style-type: none"> 戸外や遊戯室で体を動かして遊ぶことを楽しむ。 さまざまな動作や運動遊びを試してみようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いきり走ったり跳んだりするなど、全身を使って動こうとする。 簡単なルールのある遊びを楽しむ。
		安全 <ul style="list-style-type: none"> 遊具や道具などの安全な使い方を知り、気を付けて使おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身体の異常や不調を保育者に伝える。
		生活習慣 ～みにつけよう～ <ul style="list-style-type: none"> 自分の持ち物を置く場所がわかり、片付けようとする。 友達や保育者とあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ありがとう」や「ごめんなさい」を伝えようとする。
人のかかわり（豊かな人間性づくり）	自己発揮 ～みて、きいて～	<ul style="list-style-type: none"> 自分のやりたい遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達や保育者に自分の思いを伝えようとする。
	協同性 ～いっしょにやろうよ～	<ul style="list-style-type: none"> 友達や保育者の名前を覚えようとする。 仲のよい友達と同じことをしたり触れ合ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達や保育者といろいろな遊びを楽しむ。
	きまり ～たのしいね～	<ul style="list-style-type: none"> 自分のクラスがわかり、友達や保育者に親しむ。 遊びや生活のきまりがわかり、守ろうとする。 	
意欲 ～おもしろそうだな～	意欲 ～おもしろそうだな～	<ul style="list-style-type: none"> 身近な草花や虫を見つけることを楽しむ。 土や砂などの素材の感触を味わいながら遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然に触れ、好奇心や関心をもつ。 いろいろな材料を使って描いたり作ったりすることを楽しむ。
	探究心 ～どうしてかな～	<ul style="list-style-type: none"> 見たことや聞いたこと、発見したことや驚いたことを友達や保育者に伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近なものに関心をもち、触れたり集めたりするなどして遊ぶ。
	表現 ～つたえたいな しりたいな～	<ul style="list-style-type: none"> 絵本やお話などを読んでもらうことを楽しむ。 歌を聴いて体を動かしたり口ずさんだりすることを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを込めて踊ったり、楽器を使ったりすることを楽しむ。

活動事例 1～4 (第IV章で紹介)

10月 → 11月 → 12月

Ⅲ期

Ⅳ期

<ul style="list-style-type: none"> よくかんで食べようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 何でも食べようという気持ちをもつ。
<ul style="list-style-type: none"> 遊具や道具を使って遊ぶことで、いろいろな体の動きを楽しむ。 	
<ul style="list-style-type: none"> 生活や安全に必要なきまりがわかり守ろうとする。 	
<ul style="list-style-type: none"> 生活の仕方がわかり、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 	
<ul style="list-style-type: none"> おもしろいと思ったことを繰り返し楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者に励まされながらいろいろなことに取り組み、できたことを喜ぶ。
<ul style="list-style-type: none"> いろいろな友達と遊ぶことを楽しむ。 友達と話をしたり、一緒に活動したりすることを楽しむ。 異年齢児に親しみやあこがれをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の思いに気付き、譲ったり手助けをしたり慰めたりする。
<ul style="list-style-type: none"> いろいろな友達と一緒に体を動かすことを楽しみ、順番や簡単なきまりを守って遊ぼうとする。 	
<ul style="list-style-type: none"> 自然に触れたり、自然物・素材を取り入れたりして遊ぶことを楽しむ。 	
<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな遊びを見つけ、やってみようとする。 身近なものの大小、数、色などの違いに気付く。 自然の変化に気付き、自然物に触れて遊ぶことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 知っていることやできそうなことに挑戦したり試そうとしたりする。
<ul style="list-style-type: none"> 感じたことや気付いたことなどを自分なりの言葉で表そうとする。 自然物やいろいろな素材に親しみ、絵や工作などで表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本やお話のイメージを膨らませながら読んでもらうことを楽しむ。 イメージを広げながら夢中になって、ごっこ遊びや表現遊びなどを楽しもうとする。

4歳児のカリキュラムへ

(5) 4歳児

鳥取県のめざす幼児の姿

遊びきる子ども

観点	視点	4月 → 5月 → 6月 →	
		I期	II期
生活習慣 ～みにつけよう～	食育	<ul style="list-style-type: none"> 友達や保育者と一緒に楽しく食事をする。 栽培活動などを通して、食に関する興味や関心を高める。 正しい食具の使い方や食事のマナーを身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 当番活動に喜んで取り組み、食事の準備や片付けをする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 友達や保育者と戸外で体を思いきり動かして遊ぶことを楽しむ。 友達と一緒に、いろいろな動きのある運動遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 用具や遊具の使い方に慣れ、全身を使った動きを楽しむ。
	安全	<ul style="list-style-type: none"> 園生活や安全に過ごすためのきまりやルールを知り、守ろうとする。 園の遊具や用具の安全な遊び方や扱い方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 季節によって注意すべきことや健康な過ごし方を知り、進んで気を付けようとする。
	生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 生活の仕方がわかり、持ち物の始末や片付けなどを自分で行おうとする。 友達や保育者など自分の身近な人に、あいさつや返事などをする。 	
	自己発揮	<ul style="list-style-type: none"> 自分から新しい環境にかかわり、気に入った遊びを見つけて楽しむ。 自分の思いや感じたこと、困ったことなどを言葉で伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを出しながら、夢中になって遊ぶ。 生活や遊びのなかで、自分でできることに喜びをもつ。
	協同性	<ul style="list-style-type: none"> 気の合う友達と一緒に好きな遊びを楽しむ。 みんなで取り組む活動に喜んで参加し、友達に親しみをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に遊ぶなかで、相手の思いに気付き、受け入れようとする。
	きまり	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活のきまりの大切さに気付き守ろうとする。 友達と楽しく遊ぶためにルールを守ろうとする。 	
人とのかかわり ～豊かな人間性づくり～	意欲	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然に親しみ、興味をもって、遊びのなかに取り入れようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい素材や材料に興味をもってかかわり、遊びに取り入れたい、必要な物を作ったりして遊ぶ。
	探究心	<ul style="list-style-type: none"> 身近なものや自然などに触れ、進んでかかわろうとする。 身近なものや自然物の感触を楽しんだり、発見や驚きをもったりしながら遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近なものや自然物などを使い、試したり工夫したりして遊ぶ。
	表現	<ul style="list-style-type: none"> 絵本や物語などに親しみ、興味をもつ。 友達や保育者と一緒に歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったり、体を動かしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近なものや自然に触れ、不思議さやおもしろさ、驚きの気持ちなど、心動かされたことを伝えようとする。 素材を見立てたり組み合わせたりして、自分なりに作って遊ぶことを楽しむ。

● ● ● 活動事例 1～4 (第IV章で紹介)

10月 → 11月 → 12月 →

Ⅲ期	Ⅳ期
<ul style="list-style-type: none"> 給食の献立や食材に関心をもち、食べることを楽しむ。 自分の体の健康と食べ物の関係について知り、食への関心をもち、進んで食べようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の健康に関心をもち、さまざまな食べ物を進んで食べようとする。
<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に簡単なルールのある遊びを楽しむ。 いろいろな遊具や用具を組み合わせて遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりのめあてをもって運動遊びに取り組み、積極的に体を動かす。
<ul style="list-style-type: none"> 危険な場所を知り、遊び方に気を付けて遊ぼうとする。 	
<ul style="list-style-type: none"> 生活に必要なことがわかり、できることは自分から進んでする。 生活の流れがわかり、見通しをもって過ごす。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分から進んであいさつや返事などをする。
<ul style="list-style-type: none"> 自分の力を発揮しながら、友達とかかわって遊ぶ。 友達や保育者に自分の思いを言葉で伝えたり、友達の思いに興味をもって聞こうとしたりする。 自分から活動に取り組み、自分の力を十分に発揮して遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろなことに取り組み、最後までやり遂げようとする気持ちをもつ。
<ul style="list-style-type: none"> 友達と協力して遊ぶことを楽しむ。 友達や保育者と共通のイメージをもちながら遊ぶことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に遊びや生活をやり遂げることを喜ぶ。
<ul style="list-style-type: none"> 今までの遊びをより楽しくするために、簡単なルールを付け加えたりつくり変えたりして、友達と一緒に遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> よいことと悪いことがあることに気付き、自分なりに考えて行動する。
<ul style="list-style-type: none"> いろいろな自然物や材料、素材などに触れることを通して、数量、ものの色、形、特性などに興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの環境に進んでかかわり、遊びに取り入れようとする。
<ul style="list-style-type: none"> 自然の変化に関心をもち、感動したり疑問をもったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまなものの特長や性質を知り、いろいろな遊びを工夫する。
<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージを動きや言葉などで表現して遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びに必要なものを工夫して描いたり作ったりし、それを使って友達と遊ぶ。

5歳児のカリキュラムへ

(6) 5歳児

鳥取県のめざす幼児の姿

遊びきる子ども

観点	視点	5月～6月	
		I期	II期
健康 げんきいっぱい	食育	<ul style="list-style-type: none"> 食事のマナーに気を付け、友達や保育者と一緒に楽しく食事をする。 食べ物と健康の関係を知り、進んで食べようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 栽培物を取獲したり調理したりして食べる喜びを味わう。 季節の食べ物に興味をもち、食べ物には旬があることを知る。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 戸外で、進んで体を動かして遊ぶことを楽しむ。 友達と一緒にルールのある遊びや全身を使った遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 季節ならではのさまざまな遊びを通して、思いきり活動する楽しさを味わう。 自分なりのめあてをもち、全身を使って多様な運動遊びを楽しむ。
	安全	<ul style="list-style-type: none"> 園生活で安全に通ごすためのきまりを確認し、進んで守る。 遊具や用具、遊びに使う場所などの安全に気を付けて遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の危険について知り、合図や指示に従って行動しようとする。
	生活習慣 ~みにつけよう~	<ul style="list-style-type: none"> 早寝・早起き・朝ご飯などの基本的な生活習慣を身に付ける。 生活の仕方や1日の流れを知り、年長児として望ましい生活習慣を身に付ける。 進んであいさつや返事をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近に使うものを大切に扱ったり、身の回りの整理や片付けを進んでしたりする。 自分の体に関心をもち、健康に必要な生活リズムを身に付ける。
人とかかわり (豊かな人間性づくり)	自己発揮 ~みて、きいて~	<ul style="list-style-type: none"> 年長児としての自覚をもち、保育者や友達と一緒に意欲的に生活をする。 自分の気持ちを相手にわかるように言葉で伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことを認めてもらう経験を通して自信をもって行動する。 自分なりにめあてをもち、挑戦しようとする。
	協同性 ~いっしょにやろうよ~	<ul style="list-style-type: none"> 年長になったことを喜び合い、友達と一緒に遊ぶ楽しさや友達とのつながりを感じながら生活する。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見や感情の行き違いのなかで、相手の気持ちや考えをわかろうとする。 友達と意見を出し合って工夫することで、遊びがより面白くなることを感じる。
	きまり ~たのしいね~	<ul style="list-style-type: none"> 友達と楽しく生活するなかで、きまりの大切さに気付き、守ろうとする。 友達と簡単なルールを確認したり伝え合ったりして、ルールを意識して遊びを進めようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活に必要なきまりについて自分たちで考え、理解して、行動しようとする。
意欲 ~おもしろそうだな~	意欲	<ul style="list-style-type: none"> 年長児になったことを喜び、遊びを意欲的に進める。 身近な動植物や自然現象に興味や関心をもち、遊びのなかに取り入れようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりにめあてをもち、いろいろな遊びに繰り返し取り組む。 身近にあるいろいろな素材や材料の使い方がわかり、遊びに生かそうとする。
	探究心 ~どうしてかな~	<ul style="list-style-type: none"> 身近に起こるいろいろな事象に関心をもち、疑問に思ったことなどを試したり調べたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 砂や水、泥など素材の特性がわかり、触れたり組み合わせたりしながら遊ぶ。 遊びのなかで数を数えたり、量の多い少ないに関心をもちたりする。
	表現 ~つたえたいな しりたいな~	<ul style="list-style-type: none"> 身近な出来事について、感じたことや不思議に思ったことを言葉で表現する。 絵本や物語に親しみ興味をもって聞き、イメージを豊かにして表現する楽しさを味わう。 友達と一緒に歌を取ったり、リズムに合わせて楽器を使ったりして表現活動を楽しむ。 見たこと、考えたことをいろいろな素材を使って、工夫して表現しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな環境に触れるなかで、豊かな感性をもち自分なりに表現することを楽しむ。 自分の伝えたいことをわかるように話すとともに、友達の話にも関心をもちて聞く。

活動事例 1～4 (第IV章で紹介)

10月 → 11月 → 12月 →

Ⅲ期

Ⅳ期

<ul style="list-style-type: none"> ・ 食材や食事を用意してくれる人へ感謝し、命の大切さに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食時間内に残さず食べる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と積極的に体を動かす運動に取り組み、競い合ったり、ルールを作ってみんなで遊んだりすることを楽しむ。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 用具の特長を生かして、いろいろな運動遊びを楽しむ。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ ルールの必要性や危険なことに気付いて、意識して行動しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危険な遊び方や場所に気付き、自分で判断して安全に行動しようとする。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 園生活の流れを予測したり、見通しをもって行動したりしようとする。 ・ 健康な生活や病気の予防に関心をもち、意識して行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間を意識しながら生活に見通しをもち、場や状況に応じた行動をとる。 ・ 進んで生活に必要なあいさつや正しい言葉遣いをしようとする。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と十分かかわり、自分の力を発揮し、遊びを進めていく達成感を味わう。 ・ 友達の考えを聞いたり、自分の考えや発見などを話したりして、伝えるうれしさを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のやりたい遊びに夢中になる。 ・ クラスや同年齢の友達とみんなで活動する楽しさがわかり、友達との連帯感を感じながら自分の力を発揮する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えと相手の考えの違いに気付き、折り合いをつけて遊びを進めようとする。 ・ 友達と役割を分担し、互いに考えを出し合い協力して遊びや生活を進める。 ・ グループの友達と共通の目的に向けて遊ぶなかで、一緒に進めていく楽しさややり遂げた満足感を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の感じたことや考えたことを友達にわかるように伝えるとともに、友達の話も聞き、受け止める。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちできまりを作ったり、遊びを考えたりしてみんなで楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今は何をすべきかなどを自分なりに判断し、状況に応じた行動をする。 ・ 友達と一緒に考えたルールを守りながら、自分たちで遊びを進める。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸外遊びに意欲的に取り組み、友達と一緒に遊びを発展させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校との交流などを通して、就学への期待を膨らませ意欲的に生活する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然物を使ってさまざまな遊びに取り組み、その感触や特徴などに気付いたり調べたりする。 ・ 積極的に園外に出かけ自然物で遊んだり、身近な自然と触れ合ったりしながら、季節の移り変わりに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な環境に自らかかわり、考えたり試したり工夫したりして遊ぶ。 ・ 失敗してもあきらめないうで、遊びを広げたり深めたりする。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達といろいろな歌を取ったり楽器を使ったりして曲の感じやリズムの変化を楽しむ。 ・ 日常生活のなかで、数や文字に関心をもち、生活に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな材料を自分のイメージに合わせて見立て、工夫して使う。 ・ 思ったことや感じたことを絵や言葉などで表現する。

接続期のカリキュラムへ

(7) 接続期

鳥取県のめざす幼児の姿 **遊びきる子ども**

視点	視点	10月 → 11月 → 12月 →	
健康 くげんきいっばい	食育	<ul style="list-style-type: none"> 食事のマナーに気を付け、友達や保育者と一緒に楽しく食事をする。 食べ物と健康の関係を知り、進んで食べようとする。 栽培物を取獲したり調理したりして食べる喜びを味わう。 食材や食事を用意してくれる人へ感謝し、命の大切さに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食時間内に残さず食べる。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> 戸外で、進んで体を動かして遊ぶことを楽しむ。 季節ならではのさまざまな遊びを通して、思いやり活動する楽しさを味わう。 友達と積極的に体を動かす運動に取り組み、競い合ったり、ルールを作ってみんなで遊んだりすることを楽しむ。 自分なりのめあてをもち、全身を使って多様な運動遊びを楽しむ。 用具の特長を生かして、いろいろな運動遊びを楽しむ。 	
	安全	<ul style="list-style-type: none"> ルールの必要性や危険なことに気付いて、意識して行動しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 危険な遊び方や場所に気付き、自分で判断して安全に行動しようとする。
生活習慣 ～みにつけよう～		<ul style="list-style-type: none"> 早寝・早起き・朝ご飯などの基本的な生活習慣を身に付ける。 身近に使うものを大切に扱ったり、身の回りの整理や片付けを進んでしたりする。 園生活の流れを予測したり、見通しをもって行動したりしようとする。 健康な生活や病気の予防に関心をもち、意識して行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間を意識しながら生活に見通しをもち、場や状況に応じた行動をとる。 生活に必要なあいさつや正しい言葉遣いを進んでしようとする。
	自己発揮 ～みて、きいて～	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことを認めてもらう経験を通して自信をもって行動する。 友達と十分かわり、自分の力を発揮し、遊びを進めていく達成感を味わう。 友達の考えを聞いたり、自分の考えや発見などを話したりして、伝えるうれしさを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のやりたい遊びに夢中になる。 クラスや同年齢の友達とみんなで活動する楽しさがわかり、友達との連帯感を感じながら自分の力を発揮する。
	協同性 ～いっしょにやろうよ～	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えと相手の考えの違いに気付き、折り合いをつけて遊びを進めようとする。 友達と役割を分担し、互いに考えを出し合い協力して遊びや生活を進める。 グループの友達と共通の目的に向けて遊ぶなかで、一緒に進めていく楽しさややり遂げた満足感を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の感じたことや考えたことを友達にわかるように伝えるとともに、友達の話も聞き、受け止める。
人とのかわり (豊かな人間性づくり)	きまり ～たのしいね～	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちできまりを作ったり、遊びを考えたりしてみんなで楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 今は何をすべきかななどを自分なりに判断し、状況に応じた行動をする。 友達と一緒に考えたルールを守りながら、自分たちで遊びを進める。
	意欲 ～おもしろそうだな～	<ul style="list-style-type: none"> 戸外遊びに意欲的に取り組み、友達と一緒に遊びを発展させる。 身近な動植物や自然現象に興味や関心をもち、遊びのなかに取り入れようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校との交流などを通して、就学への期待を膨らませ意欲的に生活する。
	探究心 ～どうしてかな～	<ul style="list-style-type: none"> 自然物を使ってさまざまな遊びに取り組み、その感触や特徴などに気付いたり調べたりする。 積極的に園外に出かけ自然物で遊んだり、身近な自然と触れ合ったりしながら、季節の移り変わりに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な環境に自らかわり、考えたり試したり工夫したりして遊ぶ。 失敗してもあきらめないで遊びを広げたり深めたりする。
表現 ～つたえたいな しりたいたいな～		<ul style="list-style-type: none"> 絵本や物語に親しみ興味をもって聞き、イメージを豊かにして表現する楽しさを味わう。 友達といろいろな歌を歌ったり楽器を使ったりして曲の感じやリズムの変化を楽しむ。 日常生活のなかで、数や文字に関心をもち、生活に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな材料を自分のイメージに合わせて見立て、工夫して使う。 思ったことや感じたことを絵や言葉などで表現する。
	学習規律 ～さあ、がんばろう～		

<ul style="list-style-type: none"> 給食に慣れ、友達や先生と楽しく食事をする。 食べ物に関心をもち、好き嫌いせず何でも食べようとする。 給食の身支度を整え、友達と協力して配膳や後片付けをする。 基本的な食事のマナーを守る。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間内に残さず食べる。(20～25分程度) 食べ物や、給食に携わっている多くの人に感謝の気持ちをもつ。
<ul style="list-style-type: none"> 友達と楽しく体を動かす。(体育、休憩時間) 遊具や用具の使い方やきまりを知り、守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と競い合ったり、力を合わせたりして、基本的な動きや多様な動きを身に付ける。 遊具や用具の特長を生かして、いろいろな運動遊びを楽しむ。
<ul style="list-style-type: none"> 安全に過ごすためのきまりがわかり、安全に気を付けて生活しようとする。(教室での過ごし方、廊下歩行の仕方、遊具の使い方など) 交通ルールやマナーを守って安全に通学する。(通学路の歩き方、横断歩道の渡り方など) 	<ul style="list-style-type: none"> 危ない場所や行動について、自分で判断して安全に過ごそうとする。 地震や火災発生、不審者侵入などの際の安全な避難の仕方を知る。
<ul style="list-style-type: none"> 早寝・早起き・朝ご飯などの基本的な生活習慣を身に付ける。 衣服の着脱や自分の持ち物の整理整頓をする。(下足箱・ロッカー・机の引き出し) トイレや手洗い場を正しく使う。 チャイムや時間割表に合わせて行動する。 家族と一緒に次の日の準備をし、忘れ物をしないで登校する。 明るく元気のよいあいさつや返事をする。 「です」「ます」を使った丁寧な言葉遣いをしようとする。 尋ねられたことに答えたり、困ったことを伝えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習と休み時間を切り替え、チャイムや時計を意識して見通しをもって生活する。 当番活動や係活動など自分のやるべきことを最後まで行う。 <p style="text-align: right;">(担任以外の教職員)</p>
<ul style="list-style-type: none"> 自分の感じていることや思っていることを先生や友達に伝える。 友達や先生の話最後まで聞くとする。 学習や生活のなかで自分のしたいことを見つけ、集中して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習や生活を振り返り、楽しかったことや頑張ったことに気付き、自信をもつ。 自分の伝えたいことを最後まで話す。 自分の気持ちを伝え、いろいろな友達と進んでかかわろうとする。
<ul style="list-style-type: none"> 友達や先生に親しみをもって接し、一緒に学習や生活を楽しむ。 いろいろな友達と協力して、当番活動や係活動などの仕事に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 周りの友達と仲良く助け合い、楽しい学校生活を送る。 相手の気持ちを考え、思いやりをもって接しようとする。 友達の考えを知り、折り合いをつけて生活する。
<ul style="list-style-type: none"> 学校生活のきまりを守り、みんなで使う物や場所を大切に使う。 	<ul style="list-style-type: none"> 善悪の判断を自分で行い、よいと思うことを進んで行う。 学校生活を楽しくするためのルールを相談してつくる。
<ul style="list-style-type: none"> 学校の学習や生活を楽しむ。 いろいろなことにご「やりたい」という気持ちをもって取り組む。 自然現象や学校の動植物に進んでかかわり、興味・関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「わかった」「できた」という喜びを感じ、進んで生活や学習をしようとする。 身の回りの自然や事象に触れるなかで、驚きや発見などの喜びを感じる。
<ul style="list-style-type: none"> 生活や学習のなかで、いろいろな方法を考えたり工夫したりすることを楽しむ。 新しいことや苦手なことに挑戦しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 困難なことや自分の課題にもあきらめずに挑戦し、乗り越えようとする。 不思議に思ったこと、疑問に思ったことを尋ねたり、進んで調べたりする。
<ul style="list-style-type: none"> 声の大きさや速さ、姿勢や口形などに注意して、相手に伝わるように話す。 絵本や物語に興味をもち、挿絵や言葉、文章などから想像する楽しさを味わう。(読み聞かせを聞く、自分で読む) 歌を歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたりして表現活動を楽しむ。 楽しく絵を描いたり、作りたいものを作ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを生活のなかで使おうとする。 友達や先生に自分の考えを話したり、絵や文字でかいたりする。
<ul style="list-style-type: none"> 学習に必要なきまりを知り、守る。(手の挙げ方、発表の仕方、椅子の座り方、話の聞き方など) 学習に慣れ、一定時間集中して取り組む。(20分間程度) 家庭学習に取り組む。 教科書や筆記用具など学習用具の使い方を知り、大切に使う。 	<ul style="list-style-type: none"> 45分間の学習に慣れ、進んで学習に取り組む。

【幼児教育パワーアップ事業実践園】

鳥取市立城北保育園



【2歳児】
みんなで
おばけちゃんのお弁当をつくらう

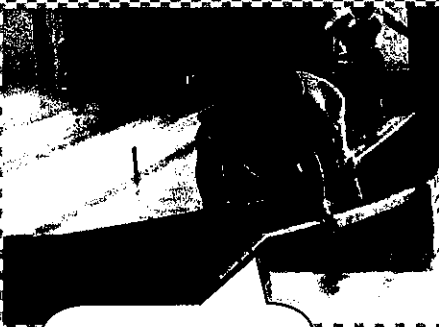
鳥取市立福部幼稚園



【5歳児】
みんなで
力を合わせて
がんばるぞ

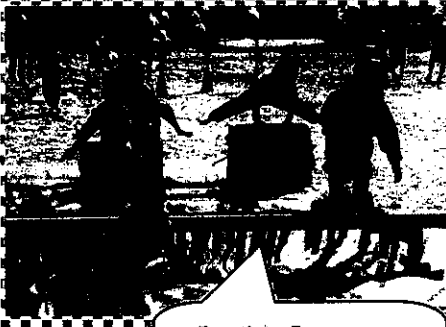
実践園

鳥取市立すくすく保育園



【3歳児】
はしごだって
へっちゃらだよ

鳥取第二幼稚園

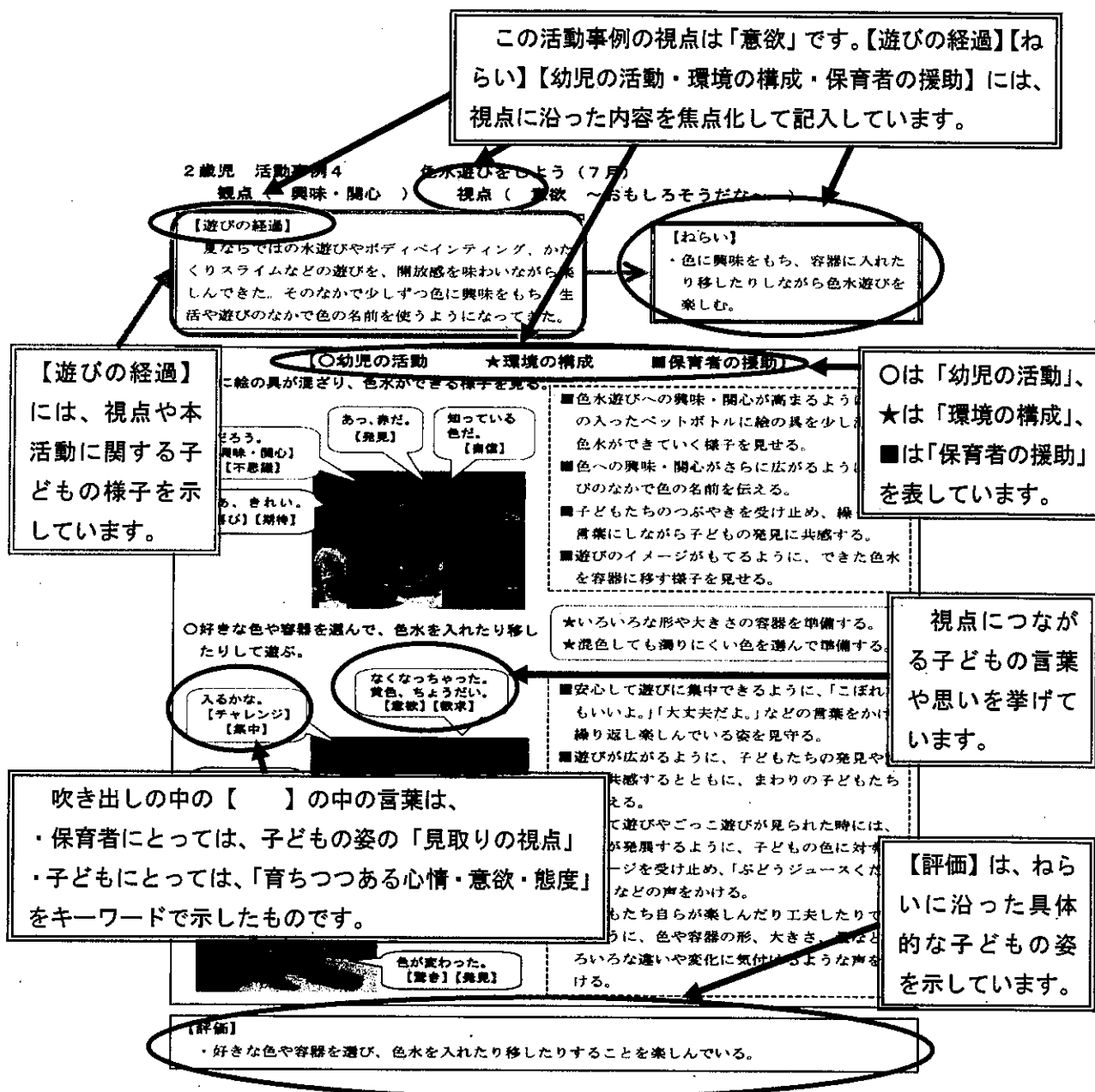


【5歳児】
忍者修行に挑戦だ

第IV章 活動事例

1 活動事例の見方

この章には、第III章の各年齢のカリキュラムに基づく活動事例を掲載しています。活動事例は、各年齢で4事例ずつ紹介しています。



★この活動事例を参考に、幼稚園等や地域の特色を生かし実践していきましょう。自園ならではの「活動事例」を開発していきましょう。

2 各年齢の活動事例

(1) 0歳児

0歳児 活動事例1

台の上って遊ぼう (7月)

観点 (生活)

視点 (健康

〜げんきいっぱい〜

運動)

【遊びの経過】

坂道やでこぼこ道、芝生の上など、バランスをとりながらしっかりと歩くようになってきた。高い所に上ろうとチャレンジする姿も見られるようになった。

【ねらい】

いろいろな台に上ったり下りたりして、十分に体を動かすことを楽しむ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★階段やジャンプ台、ふわふわ坂道などの台を安全に配置する。

★いろいろな質感のある台を用意する。

○好きな台に上る。

触ってみたいな。
【好奇心】

上れるかな。
【興味・関心】



(こんな台もあるよ) 上ってみよう。
【意欲】【好奇心】

■好きな台を自分で選べるように、いろいろな形や材質の台を用意し、上ってみせる。

■安全に遊べるように、子どもの動きに応じて立つ位置を変える。

■子どもが安心して体を動かせるように台の上って見せ、一人一人に応じた援助をする。

○台から下りる。

ジャンプしたい。【チャレンジ】



やったあ。(できたね)
【満足感】

おしりから下りたよ。
【満足感】

■十分に体を動かせるように手を添えたり、子どもが決めた下り方を認めたりする。

■ジャンプして下りようとする子どもには、危険がないように両手を持ち、声をかける。

○いろいろな台を何度も上ったり、下りたりする。

やったね。
【満足感】



うまく上れない。でもやってみよう。
【チャレンジ】

何回もやってみよう。
【チャレンジ】

どうやって下りたらいいかな。【意欲】

■さらに体を動かすことができるように、バランスをとりながら上り下りするふわふわ坂道にも挑戦するよう促す。

■満足感を味わえるように、いろいろな台に挑戦したことを一緒に喜ぶ。

*吹き出しの()内は、保育者の言葉かけ

【評価】

・階段やジャンプ台、ふわふわ坂道などの上り下りに繰り返し挑戦することを楽しんでいる。

0歳児 活動事例2

自分でできると楽しいな（8月）

観点（生活）

視点（生活習慣 へみにつけようへ）

【遊びの経過】

つかまり立ちや伝い歩き、歩行など自ら動けるようになり、いろいろな場面で自分の意思で動くことが多くなってきた。行動範囲が広がり、活動量も増えてきた。食事では、手づかみをしたりスプーンを使ったりするなどして、意欲的に食べるようになってきた。

【ねらい】

自分が食事をする場所で意欲的に食べようとする。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★お腹がすくように活動量を確保する。

★食事の場所を決めておく。

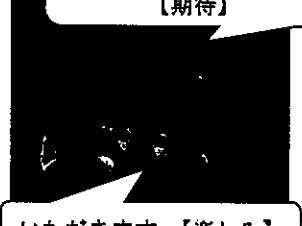
○自分が食事をする場所に座る。

ぼくのおしぼりだよ。【意欲】



（手がふけたかな。）
ふけたよ。【意欲】

お腹がすいた。
（どんなごちそうかな。）
【期待】

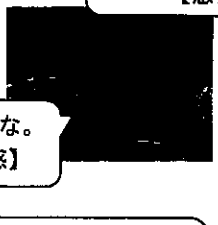


いただきます。【楽しみ】

- 自分の食事の場所を見つけられるように、おしぼりやエプロンを置く。
- おしぼりで手を自分でふけるように見守り、不十分な時は仕上げふきをする。
- 食事の姿勢が整うように必要に応じて手を添える。

○食事をする。

（おいしそうだね。）
わたしも食べる。
【意欲】



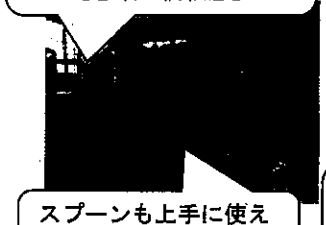
おいしいな。
【満足感】

食べるよ。
（おなかですいたね。）
【意欲】

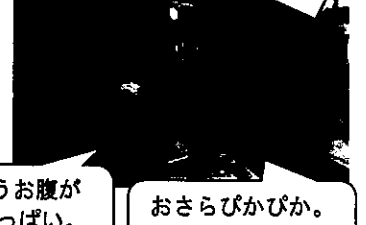


- 自分の食べ方で意欲的に食べている姿を認める。
- 自分から食べることができるよう、友達の様子を知らせたり援助したりする。
- こぼしながらも自分から意欲的に食べたことを認める言葉かけをする。
- 満腹感を伝えられるように、子どもの様子を見て無理強いせず、言葉にして問いかける。

先生、見て。食べるよ。
（一人で食べられたね。）
【意欲・信頼感】



もう、ごちそうさ
ましようか。【見通し】



スプーンも上手に使
えるよ。【意欲】

もうお腹が
いっぱい。
【満足感】

おさらびかびか。
【満足感】【喜び】

*吹き出しの（ ）内は、保育者の言葉かけ

【評価】

・自分が食事をする場所で、自分が食べやすい方法で意欲的に食べている。

0歳児 活動事例3

自分で選んだおもちゃで遊ぼう（7月）

観点（人とのかかわり） 視点（協同性 〜いっしょにやろうよ〜）

【遊びの経過】

特定の大人による個へのかかわりを大切にするこゝで情緒が安定してきた。また、いくつかのおもちゃのなかから自分で選べるようになってきた。

【ねらい】

自分でおもちゃを選んで遊ぶことを楽しんだり、相手の遊びに興味をもったりする。

【0歳児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★安心できる空間、安心して過ごせる保育者のそばで、自ら遊びだせる雰囲気をつくる。

○ふれあい遊びを楽しむ。

くるぞ、くるぞ。【期待感】



（楽しいね。）
もっと、もっと。
うれしいな。
先生大好き。
【安心感】
【満足感】
【信頼感】

（もう1回ね。）
わあ、もう1回。
【満足感】

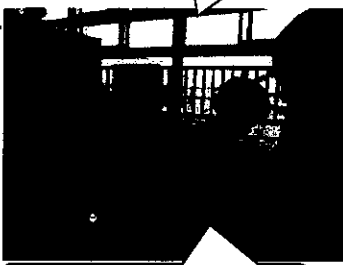
- ふれあい遊びをすることを身振り手振りで伝える。
- ふれあい遊びを繰り返し楽しめるように表情を観察し、要求に応じていく。
- しばらく遊び、満足そうな表情を確かめてから終わりにする。

○自分で選んだおもちゃで、さまざまに遊ぶ。

楽しいな。【夢中】【没頭】



友達は何してるのかな。
【人とのかかわり】



これで遊びたい。【意欲】

ほくもやりたい。
【意欲】

今、わたしが乗ってるの。
【人とのかかわり】【葛藤】

★自ら遊びだせるように、いろいろなおもちゃを準備しておく。

- 自ら興味があるものに近づき、遊びだせるよう見守る。
- 遊びが広がるように保育者も一緒に遊びを楽しむ。
- 友達の遊びを知らせる言葉をかけ、相手のしていることに気付き、興味をもてるようにする。
- 「何が見えるかな。」「不思議だね。」など、子どもの仕草や気持ちを言葉に変え、興味・関心を引き出す。

* 吹き出しの（ ）内は、保育者の言葉かけ

【評価】

- ・自分の選んだおもちゃで遊んでいる。
- ・相手のしている遊びを見たり、まねようとしていたりしている。

0歳児 活動事例4

たいこをたたこう（2月）

観点（興味・関心）

視点（表現 一つたいたいな しりたいたいな）

【遊びの経過】

音楽が聞こえてくると、体全体で楽しんでいる。最近では太鼓を打つことに興味・関心が高い。そこで、表現遊びをより楽しめるように太鼓のばちに絵の具をつけることにした。

【ねらい】

太鼓を打つことで自由に表現して楽しむ。

【0歳児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★思う存分遊べるようにシートを敷いておく。

○先に絵の具がついたばちで太鼓を打つ。



あれ、色がつくよ。
【興味・関心】

よし、やってみよう。
【好奇心】

■太鼓を打つことがより楽しめるように、いつも遊んでいるばちの先に絵の具をつける。

■周りの様子をうかがいながら太鼓を打つなど、自分で表現しようとする姿を認める。

○太鼓のばちを自由に動かして打つ。

いっぱい、打ったよ。
【表現】

見て、見て。
【自己発揮】



小さい音、大きい音。
【意欲】
【興味・関心】

■腕を小さく動かしたり、大きく動かしたりして、楽しんでいる姿を見守る。

■ばちを自由に動かせるように、「上手だね。」「うれしいね。」など子どもの表現を認める言葉をかける。

★体全体の動きを引き出すために子どもの好きな曲をかける。

○音楽に合わせて体を動かしながら太鼓を打つ。

ドンドン。
【表現】

この歌、知ってる。
【楽しさ】
【興味・関心】

おもしろい。
【満足感】

もっとやりたい。
【意欲】

■歌ったり手拍子をしたりして、楽しい雰囲気づくりをする。

■自由に表現したことを認め、次の意欲につなげる。

【評価】

・自由に太鼓をばちで叩いて色をつけたり、曲に合わせて動いたりすることを楽しんでいる。

(2) 1歳児

1歳児 活動事例1

おいしくなあれ(8月)

観点(生活)

視点(健康 ~げんきいっぱい~ 食育)

【遊びの経過】

子どもたちは、調理の手伝いを通して普段なかなか触れることのない食材に触れ、興味をもち始めている。苦手なものでも自分から食べようとする気持ちが高まってきた。

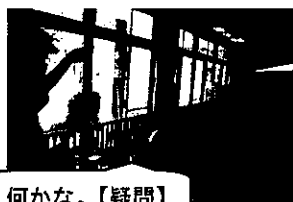
【ねらい】

興味・関心をもって食材に触れ、自分で食べようとする意欲をもてるようにする。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★調理師から話を聞く場を設定する。

○興味をもって調理師の話を聞く。



きのこだ。
【興味・関心】

♪きっききのこ♪
【気付き】

何かな。【疑問】

■自分から食べようとする意欲をもたせるために、今日の給食の食材であるしいたけを実際に指でちぎって見せて、期待感を高める。

★ちぎったしいたけを入れやすい位置にざるを用意する。(各テーブル)

○食材の感触を感じながらちぎったり、ざるに入れたりする。

いやだ。やりたくない。【葛藤】

ふわふわ、ぎゅっ。
【気付き】【探究心】



ちぎちぎ。
【楽しさ】

おもしろいなあ。【夢中】

やったあ。できた。
【満足感】

■子どもが感じたしいたけの感触と一緒に驚いたり楽しんだりする。
■自分でちぎろうとする姿を見守り、「上手だね。」「たくさんちぎれたね。」と声をかけ、満足感を味わえるようにする。
■とまどっている子どもには、分かりやすくちぎり方を知らせたり、手を添えたりして一緒にちぎっていく。
■嫌がる子どもには無理強いせず、友達がちぎる様子を一緒に見ながら少しずつ興味をもてるようにする。

○しいたけを見つけ、喜んで食べてみる。苦手な子どもも食べてみようとする。

おいしいなあ。
【喜び】



あった。ぼくのちぎったしいたけ。【発見】

食べてみよう。【チャレンジ】

■給食を配膳し、「みんなのちぎったしいたけはどこかな。」と一緒にしいたけを探す。
■子どもたちと一緒に食べながら「○○ちゃんのちぎったしいたけかな。」「おいしいね。」と声をかけ、楽しい雰囲気の中で自分から食べられるようにする。

【評価】

- ・食材に触れ、感触を楽しんだり、不思議さを感じたりしている。
- ・調理の手伝いをし、喜んで自分から食べようとしている。

1歳児 活動事例2

片付け楽しいね(10月)

観点(生活)

視点(生活習慣 へみにつけよう)

【遊びの経過】

片付けの時間になっても遊びに夢中になり、なかなか片付けをしようとしなかったが、少しずつ保育者に促されて片付けようとする姿が見られるようになってきた。

【ねらい】

遊んだものを保育者と一緒に片付けることを楽しむ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★個々に楽しみながら片付けられるように、牛乳パックちりとりを見せる。

○牛乳パックちりとりをもらって喜び、見せ合う。

見て。【喜び】

いっしょ、
いっしょ。
【気付き】

何するのかなあ。【期待】

- 「ここにたくさん入れようね。」と牛乳パックちりとりにごみを入れて見せ、楽しんで集められるようにする。
- すぐにやってみたいと要求してきた子どもに、牛乳パックちりとりを手渡す。

○遊びに使った新聞紙の切れ端を拾ったり、友達の姿を見てまねたりする。

これも、これも。いっぱいにするよ。【夢中】

ふうん。そうするんだ。【気付き】

- 「いっぱい入ったね。」とたくさん拾っている子どもの姿をまわりの子どもに知らせ、「○○ちゃんも入れてみようか。」など、片付けが楽しくなるような言葉かけをする。
- 子どもの様子を見ながら「ちりとりがいっぱいになったら、ごみ箱に入れようね。」と声をかける。

○新聞紙をごみ箱に移してまた拾いに行く。

代わって。
【要求】

いっぱい入っているよ。
【喜び】

ほくもやりたい。【葛藤】

出ないなあ。振ってみよう。
【試行錯誤】

- 部屋の片付けをがんばったことに気付けるように、ごみ箱がいっぱいになったことを伝える。
- 満足感が味わえるように、みんなで「やったあ。」と言い合う。

【評価】

・保育者と一緒に牛乳パックちりとりを使って、自分から片付けをしている。

1歳児 活動事例3

ブロックスタンプを楽しもう(10月)

観点(人とのかかわり) 視点(自己発揮 へみて、きいてへ)

【遊びの経過】

ブロックを使ったスタンプ遊びに、夢中になって取り組む姿が見られる。この遊びをもっと続けたいと自分の思いを伝えられるようになってきた。

【ねらい】

スタンプ遊びを通して、自分の思いを保育者や友達に自分なりの方法で表す。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★前回の活動で使ったものや今日の活動で使う模造紙やブロックを見せ、期待を膨らませていく。

○早く遊びたい気持ちを伝える。

何をするのかな。
【興味・関心】

まだかな。早くやりたい。【期待】

ちょうだい。
【欲求】

おもしろそう。【意欲】

■子どもたちが進んでやってみようとする姿を引き出すために、すぐに声をかけるのではなく、子どもの様子を見ながら要求に応える。

■遊び出すきっかけを待っている子には、自分の思いが出せるように様子を見て、「やってみようか。」など声をかけていく。

★一人でじっくり楽しみたい子どものために、テーブルや画用紙を用意する。

○自分の思うようにどんどんスタンプを押している。

ぎゅう。
楽しいな。
【満足感】

これでしてみる。
【探究心】

きれいだなあ。
【感動】【喜び】

あっ、音がする。気持ちいい。【満足感】

■子どもの楽しい気持ちに共感しながら、一人一人の楽しみ方を受け止める。

■自分が思った通りにスタンプが押せるように、保育者も一緒に活動し楽しさを共有していく。

○スタンプ台を一人で使いたいと友達や保育者に訴える。

一緒にしよう。
【人とのかかわり】
【思考】

はどうぞ。
【自己決定】【葛藤】

やっぱりいやだ。
【独占】【葛藤】

■使いたいという思いをうまく相手に伝えられずにいる子どもには、言葉を知らせたり添えたりして伝えられるようにする。

■一方で、一人で使いたい気持ちを表している姿も受け止めるようにする。

■子ども同士で「一緒にしてもいい。」「いいよ。」などのやりとりができたときには、「よかったね。」「うれしいね。」と子どもの気持ちに共感していく。

【評価】

・保育者や友達に自分の思いを表情や言葉、行動などで伝えようとしている。

1歳児 活動事例4

汽車ごっこをしよう(1月)

観点(興味・関心)

視点(表現 一つたいたいな しりたいたいな)

【遊びの経過】

歌や手遊びを好み、歌詞を覚えて歌おうとする子どもが多くなり、好きな歌をリクエストしたり、曲に合わせて体を動かしたりして楽しむようになってきた。

【ねらい】

歌うことを喜び、リズムに合わせて体を動かすことを楽しむ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★ピアノを弾き、歌いたくなるような雰囲気をつくる。

○保育者の側に行き、好きな曲を要求し歌い出す。



〇〇がいい。
先生、早く弾いて。
【要求】

リンゴがいい。
【曲名：リンゴとみかん】
【要求】

■喜んで歌えるよう子どもたちの要求を受け入れながら、子どもたちが親しんでいる歌を表情豊かに楽しみながら歌う。

■より興味をもてるように、ペープサートなどを使って楽しさを伝える。

★歌に合わせて体を動かして楽しめるよう安全に配慮し、広い場所を選ぶ。

○汽車ごっこの歌に合わせて、保育者や友達と体を動かすことを楽しむ。

いっしょ、いっしょ。
【喜び】

いいなあ。
【興味・関心】

ポッポー。
【楽しさ】

〇〇ちゃんも、やりたい。
【要求】

■興味・関心をもてるよう保育者が運転手になり、子どもたちを誘う。

■子どもたちが、思わず体を動かしたくなるようなテンポのよい曲を用い、自然に体を動かすことを楽しめるようにする。

■保育者が運転手になり、汽車ごっこの曲に合わせてつながる楽しさも感じられるように、「〇〇ちゃんどうぞ。」と誘っていく。

【評価】

・保育者と一緒に牛乳パックちりとりを使って、自分から片付けをしている。

(2) 2歳児

2歳児 活動事例1

サーキット遊びをしよう(10月)

観点(生活)

視点(健康 へげんきいっぱい 運動)

【遊びの経過】

かけっこやジャングルジムを使った遊びなど、戸外で体を動かす遊びを楽しむようになってきた。また、今まではあきらめていたような遊具に何度も挑戦するなど、いろいろな体の動きが見られるようになってきた。

【ねらい】

いろいろな遊具に挑戦しながら、体を多様に動かすことを楽しむ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

○平均台の一本橋を渡って遊ぶ。



手を伸ばすとこわくないよ。
【積み重ね】
【自信】
【多様な動き】

わたしもやってみよう。
【意欲】【チャレンジ】

★遊戯室の安全を事前に確認しておく。

- いろいろな動きが試せるように、サーキットの遊び方を伝える。
- 安心して挑戦できるように、危険なところは保育者が近くで見守る。
- 自分もやってみようとする意欲につながるよう、友達の動きがよく見える位置で並んで待つように声をかける。

○鉄棒にぶら下がり、10数えて交代して遊ぶ。



ほくもしたい。
【チャレンジ】
【多様な動き】

見て、見て。
【喜び】【満足感】

- 手が届かない子どもや、しっかりと自分の力でぶら下がりにくい子どもには補助を行い、体を動かすことを楽しめるようにする。
- 子どもたちの意欲や、友達の姿を見て挑戦しようとする気持ちを受け止める。

○はしご渡りをして遊ぶ。



やったあ、渡れたよ。
【達成感】【自信】

こんなふうには足を動かすといいな。
【達成感】
【多様な動き】

★多様な動きを引き出すために、サーキットの遊具を少しずつ変化させたり加えたりする。

★はしごの下にはマットを敷いておく。

- できるようになったことを認めたりほめたりすることで、自信をもち、楽しんで体を動かせるようにする。
- 保育者もはしご渡りをしながらモデルとなり、一緒に体を動かすことを楽しむ。

落ちてしまった。もう1回やろう。 【チャレンジ】

【評価】

・友達の姿をまねたり、自分からいろいろな動きに挑戦したりしながら、体を多様に動かしている。

2歳児 活動事例2

衣服の始末の仕方を身につけよう（6月）

観点（生活）

視点（生活習慣 ～身につけよう～）

【遊びの経過】

プール遊びが始まり、衣服を着脱する機会が増え、進んで取り組んでいた。困った時には保育者に伝え、手伝ってもらいながら、自分で着脱しようとする姿が見られるようになってきた。

【ねらい】

衣服の始末の仕方がわかり、自分でやってみようとする。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

○服を脱いで水着に着替える。脱ぎにくい時は、保育者に手伝ってもらおう。

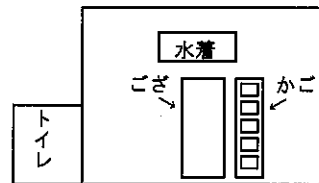
ボタンがはずれない。でも、やってみよう。
【チャレンジ】

汗でくっついて、脱ぎにくいなあ。
【気づき】

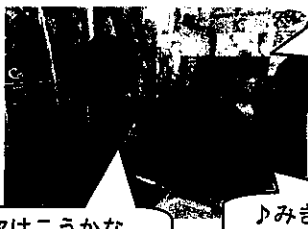
自分でやってみる。
【意欲】

★着脱しやすいように、動線を考えて配置する。

★脱いだ服は、自分のかごに入れるようにする。



○自分で服を脱いだりたたんだりしようとする。



裏返すのは難しいけど、やってみよう。
【チャレンジ】

次はこうかな。
【見通し】

♪みぎのて、ひだりのて♪
【楽しさ】

■袖の脱ぎ方を伝えながら、難しそうなところは援助する。

■たたむ順序がわかりやすいように、「たたみ方の歌」を歌い、片袖ずつ順にたためるようにする。

■自分でやろうとしている姿を認める。

■次も自分でやってみようという気持ちにつながるように、自分でできた喜びに共感したりほめたりする。

○うまくたためたことを保育者に知らせたり、まわりの友達に見せたりして喜ぶ。



見て、見て。きれいにたためたよ。
【達成感】

○服に着替え、かごを片付ける。

あそこに置くだな。
【理解】



ほくも持っていこう。
【意欲】

★片付ける場所がよくわかるように、かごの置き場所を一定にする。

■かごをしまい忘れている場合は、自分で気付けるように、「どこに片付けようかな。」と声をかける。

【評価】

・保育者に見守られ、自分で衣服をたたんだり、難しいところは手伝ってもらったりしながら、衣服の始末を自分でしようとしている。

2歳児 活動事例3

草むらで見つけたよ (10月)

観点 (人とのかかわり) 視点 (自己発揮 ~みて、きいて~)

【遊びの経過】

虫探しでは、「バッタだ。」「ここにいた。」などの言葉が多く聞かれた。周辺散策に出かけて自然体験をしていくなかで、自分で見つけて喜んでる姿から、徐々に保育者や友達に思いを伝えようとする姿に変わってきた。

【ねらい】

草むらで発見したことや感じたことを、保育者や友達に言葉で伝えようとする。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

○保育所周辺の田んぼに出かける。

一緒に
行こう。
【楽しさ】

てんとう
虫はいな
いかなあ。
【期待】

バッタをい
っぱい見
つけた
いな。
【意欲】

★事前に下見をして、危険な場所を確認しておく。
★見つけることを楽しみにして出かけられるように、一人一人に容器を用意する。

■興味膨らむように、出かける場所や見つけたいものの話をして、子どもたちの言葉を引き出す。

○草むらに静かに入っていく。隠れている虫を見つけてつかまえたり、草花を摘んだりする。

わあ、バッタだ。
びっくりした。
【驚き】

この花きれいだな。
【感動】

まてまて。
【集中】

先生、一緒にオオ
バコ相撲をしよう。
【意欲】【楽しさ】

■虫や草花を発見した喜びや感動が共に味わえるように、一緒に探していく。

■感じたことや気持ちを受けとめ、認められているという安心感のなかで、一人一人のつぶやきに共感していく。

ほくもつかまえない。
【意欲】

見て見て、つかまえた。
【達成感】
【人とのかかわり】

■興味・関心が広がるように、他の自然物や遊び方を知らせる。

○見つけたものを見せ合ったり、感じたことを言い合ったりする。

バッタだよ。
【人とのかかわり】

これなあに。
【興味・関心】

1匹入れてあげようか。
きつく持ったらだめだよ。
【人とのかかわり】

■自分なりの言葉で友達と会話を楽しんでいる姿を見守る。

■思いをうまく伝えられず困っている時には、気付きや思いに共感し、仲立ちをする。

バッタの色がちがうなあ。
【発見】

こっちの方がちっちゃいな。
【気付き】

■虫の触り方、色や大きさの違いに気付けるように、見せ合ったり比べたりする場をもつ。

【評価】

・保育者や友達に、草むらでの発見や驚き、喜びなどを、自分なりの言葉で伝えようとしている。

2歳児 活動事例4

色水遊びをしよう（7月）

観点（興味・関心）

視点（意欲 ～おもしろそうだな～）

【遊びの経過】

夏ならではの水遊びやボディペインティング、かたくりスライムなどの遊びを、開放感を味わいながら楽しんできた。そのなかで少しずつ色に興味をもち、生活や遊びのなかで色の名前を使うようになってきた。

【ねらい】

色に興味をもち、容器に入れたり移したりしながら色水遊びを楽しむ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

○水に絵の具が混ざり、色水ができる様子を見る。

何だろう。
【興味・関心】
【不思議】

あっ、赤だ。
【発見】

知っている
色だ。
【自信】



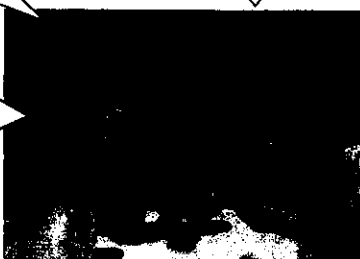
わあ、きれい。
【喜び】【期待】

- 色水遊びへの興味・関心が高まるように、水の入ったペットボトルに絵の具を少し混ぜ、色水ができていく様子を見せる。
- 色への興味・関心がさらに広がるように、遊びのなかで色の名前を伝える。
- 子どもたちのつぶやきを受け止め、繰り返し言葉にしながら子どもの発見に共感する。
- 遊びのイメージがもてるように、できた色水を容器に移す様子を見せる。

○好きな色や容器を選んで、色水を入れたり移したりして遊ぶ。

入るかな。
【チャレンジ】
【集中】

なくなっちゃった。
黄色、ちょうだい。
【意欲】【欲求】



こぼしても、へっちゃら。
【夢中】【没頭】
【集中】

- ★いろいろな形や大きさの容器を準備する。
- ★混色しても濁りにくい色を選んで準備する。



よし、混ぜてみよう。
どうなるかな。
【探究心】【期待】

色が変わった。
【驚き】【発見】

- 安心して遊びに集中できるように、「こぼれてもいいよ。」「大丈夫だよ。」などの言葉をかけ、繰り返し楽しんでいる姿を見守る。
- 遊びが広がるように、子どもたちの発見や驚きに共感するとともに、まわりの子どもたちに伝える。
- 見立て遊びやごっこ遊びが見られた時には、遊びが発展するように、子どもの色に対するイメージを受け止め、「ぶどうジュースください。」などの声をかける。
- 子どもたち自らが楽しんだり工夫したりできるように、色や容器の形、大きさ、量などいろいろな違いや変化に気付けるような声をかける。

【評価】

・好きな色や容器を選び、色水を入れたり移したりすることを楽しんでいる。

(4) 3歳児

3歳児 活動事例1

プールで遊ぼう(8月)

観点(生活)

視点(健康 ~げんきいっぱい~ 運動)

【遊びの経過】

子どもたちは、夏ならではの遊び(泥んこ・しゃぼん玉・色水・洗濯ごっこなど)を、友達と一緒に思いきり楽しんできた。プールでのさまざまな遊びも経験し、もっとプールでの遊びを楽しみたいという気持ちが高まってきた。

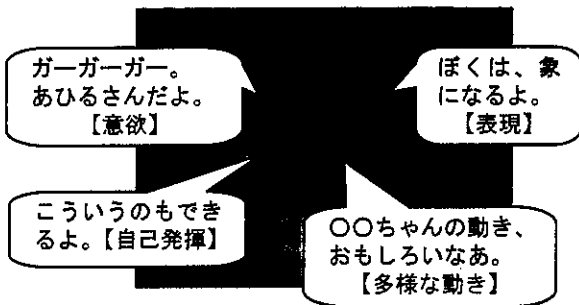
【ねらい】

プールの中でいろいろな動きを楽しむ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

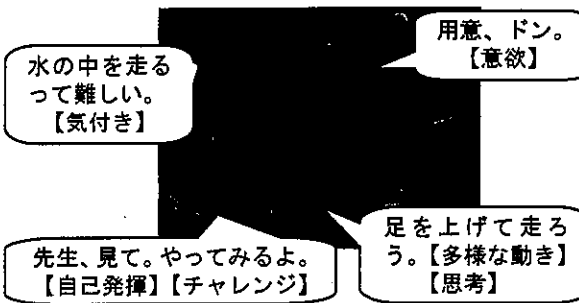
★プール遊びの危険性を知らせるとともに、複数の職員を配置して安全面に留意する。

○プールの中で動物(あひる・ワニなど)のまねっこをして遊ぶ。



- 子どもの発想から、いろいろな動きをまねて遊べるように、知っている動物の名前や動きを出し合う場を設定する。
- 怖がる子どもには、動物のまねっこ遊びが楽しめるように、まねる動物を自分で選んでなりきって遊べるようにする。

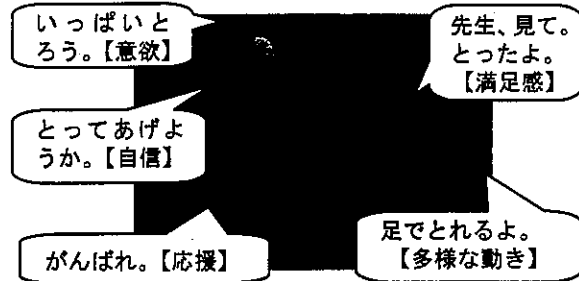
○プールの中でかけっこ遊びをする。



- 水の中でかけっこをすることで、いろいろな動きを経験するとともに、水の感触や水の中で体を動かすコツをつかめるようにする。
- スタートの合図をしたり、保育者も一緒に走ったりすることで、場を盛り上げ、水の中で体を動かしたくなるようにする。
- 自分なりの工夫した動きを引き出せるように、かけっこを何度も繰り返す。

★プールの底にいる魚を自分なりの方法でとれるようにするために、大きさや形が違う魚を用意する。

○魚とりをして遊ぶ。



- 上手くとれない子どもには保育者が手助けをし、一緒にとれるようにしていく。
- いろいろなとり方をしている子どもを紹介し、友達の動きをまね、たくさんの動きに挑戦しようとする気持ちを高める。

【評価】

・多様な動きに挑戦しながら、友達と一緒にプール遊びを楽しんでいる。

3歳児 活動事例2

お月見団子を作ろう（9月）

観点（興味・関心）

視点（意欲 ～おもしろそうだな～）

【遊びの経過】

「これはなに。」「どうやってできるの。」など、身のまわりの物事に関心をもって遊んでいる。「お月見」に関する絵本の読み聞かせをしたところ、月やお団子作りへの興味・関心が高まってきた。

【ねらい】

季節の行事（十五夜）に関心をもち、月見団子作りを楽しむ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★「お月見」に関する絵本や秋の自然物コーナーを設けておく。

○月見の話をする。

大きかったよ。まんまるだった。【発見】

うさぎがいた。木に登っていた。【思考】

絵本と同じだ。【気付き】

団子を作って食べたいな。【意欲】

■前日が十五夜だったことを話題にするために、「お月見」に関する絵本を再度読み聞かせて、月を見たかどうか問いかける。

■月についての子どもたちの言葉を受け止め、団子作りへの期待感につなげる。

★ボール・お皿・団子粉・水を準備しておく。（人数分）

○月見団子を作って食べる。

おもちみたい。【気付き】

どんな形にしようかな。【意欲】

これがお団子になるのかなあ。【興味・関心】
【疑問】

手にくっつくよ。【気付き】

こんなにできた。【達成感】

やったあ。【達成感】

わたしが作った団子だよ。【満足感】

お月さまみたいにまんまるだ。【気付き】

自分で作るとおいしい。【満足感】

また作ろうね。【意欲】

■一人一人のペースで自分のやりたいように団子作りを楽しめるように、粉と水を入れたセットを人数分用意する。

■子どもたちの前でやり方を見せることで、自分もやりたいという気持ちを高める。

■自分で作る姿を認めていく。

■みんなで作ることを楽しさを感じられるような雰囲気づくりに努める。

■団子をゆでてもらった調理員から、「おいしそうだね。」などと声をかけてもらうことで、団子を作ったことへの満足感や達成感を味わえるようにする。

■「おいしいね。」と一緒に喜びを伝えあうことで、また作りたいという意欲を高める。

【評価】

・月見について話したり聞いたりするとともに、自分から進んで団子作りを楽しんでいる。

3歳児 活動事例3

紙コップロケットを飛ばそう！（7月）

観点（興味・関心） 視点（探究心 〜どうしてかな〜）

【遊びの経過】

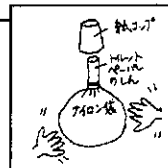
友達同士のやりとりが多くなり、友達と一緒に体を動かして遊ぶ楽しさを感じられるようになってきた。「もっとこうしたい」という気持ちをもって遊んでいる様子も見られる。紙コップロケットを飛ばして遊びたいという気持ちが高まっている。

【ねらい】

自分で作った紙コップロケットを飛ばすことを楽しむ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★紙コップのロケットを飛ばして遊べる場所（遊戯室）と時間を確保する。



○二人組で紙コップのロケットで遊ぶ。



遠くまで飛ばしたいなあ。【意欲】
【興味・関心】

どうしたら飛ばすのかな。【疑問】

ここを持つよ。やってみて。【探究心】

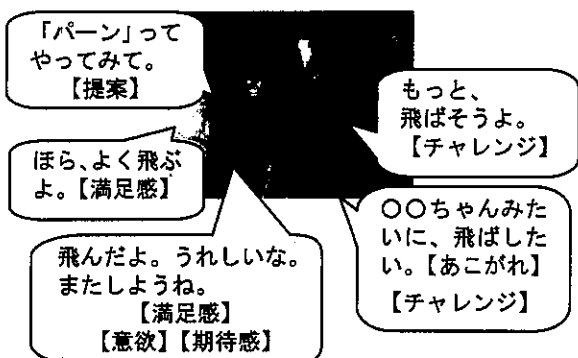
ぼくも飛ばすよ。【意欲】



いっぱい息を入れるよ。【思考】

もう1回やるよ。【チャレンジ】

○みんなで紙コップロケットを飛ばす。



「パーン」ってやってみて。【提案】

ほら、よく飛ばすよ。【満足感】

飛んだよ。うれしいな。またしようね。【満足感】
【意欲】【期待感】

もっと、飛ばそうよ。【チャレンジ】

〇〇ちゃんみたいに、飛ばしたい。【あこがれ】
【チャレンジ】

- 子どもたちの遊びたいという気持ちを高めるように遊んで見せる。
- 子どもたちに遊び方を知らせ、子どもたちがよく飛ばす方法を発見できるように、しばらく様子を見守る。
 - ・1人がポリ袋に空気を吹き込み、紙コップをかぶせる。
 - ・もう1人がポリ袋をつぶし、紙コップを飛ばす。
- とまどっている子どもには、「ここを持ってあげてね。」と声をかけたり、保育者が手助けしたりするなど、どの子どもも飛ばすことの喜びを実感できるようにする。
- 遊んでいるうちに壊れた紙コップロケットを、「穴があいたね。セロテープを貼ろうね。」などと声をかけながら一緒に直すようにする。
- 飛ばし方を発見したり工夫したりしている様子を認め、もっと飛ばしたいという気持ちにつなげるようにする。

- 「紙コップロケット飛ばし大会」として、子どもたちの出番を作り、一人一人の発見や驚きを他の子どもたちに伝える。
- 友達の飛ばし方をまねしてやってみたいという気持ちに応えるように、紙コップロケットを飛ばす十分な時間を確保する。

【評価】

・紙コップロケットをもっと「高く」「遠く」飛ばしたいという気持ちを持ち、何度も飛ばすことを楽しんでいる。

3歳児 活動事例4

おうちを作ろう(10月)

観点 (人とのかかわり) 視点 (協同性 一緒にやろうよ)

【遊びの経過】

安心して園での生活ができるようになり、個の遊びから少しずつ集団でかかわりながら遊ぶ姿が増えてきた。ままごと遊びをもっと楽しみたいという気持ちから、おうちを作ろうということになった。

【ねらい】

友達と話をしながら、ままごと遊びで使うおうちを一緒に作ることを楽しむ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★作りたいおうちのイメージをもてるように、ままごと遊びで使ってきた道具を近くに置く。

○どんなおうちでままごと遊びがしたいか話し合う。

屋根があったらいいな。【思考】

みんなが入れるおうちがいいな。【期待感】

大きいおうちがいいな。【期待感】

椅子がある。【期待感】

窓があったらいいな。【思考】

- 自分の思っていることを発表でき、認め合える雰囲気づくりに努める。
- 子どもたちが発言した気持ちを受け止めながら、それぞれの思いを生かしたおうち作りとなるよう仲立ちをしていく。
- 一人一人思いを生かしたおうちになるようにイメージ図をかき、子どもたちがこれから作るおうちのイメージをもてるようにする。

★子どもたちが家から用意してきたおうち作りに必要な材料や道具を準備しておく。

○おうちを作ることを楽しむ。

色塗り

早く遊びたいなあ。明日遊べるね。【期待感】

ほら見て、上手に塗れるでしょ。【満足感】

ここも塗る。〇〇ちゃん、塗って。【意欲】
【人とのかかわり】

飾り作り・模様付け

ねえ、手伝って。【人とのかかわり】

もっといっぱいつけよう。【意欲】

いいよ。【協力】

どのくらいの大きさにちぎろうかな。【共有化】

ここにも貼らなくちゃ。【意欲】

- 自分で選んで遊べるように、「色塗り」「飾り作り」などのコーナーを作る。
- 友達とやりとりをしながら一緒に色を塗ったり模様付けをしたりできるように、筆やのりなどの数を人数分置かないなどの工夫をする。
- それぞれのコーナーで作ったものを一つに合わせて大きなおうちにする事で、友達と一緒に作った喜びが感じられるようにする。

おうちに入ってみる

いいのができたなあ。【満足感】【充実感】

みんなが入れて、うれしいな。【期待感】

みんなで早くままごとをしよう。【期待感】

【評価】

・ままごと遊びをもっと楽しみたいという気持ちで、友達や保育者と会話ややりとりをしながらおうちを作っている。

(5) 4歳児

4歳児 活動事例1

みんなで宝島探検に行こう(6月)

観点(生活)

視点(健康 ~げんきいっぱい~ 運動)

【遊びの経過】

戸外や遊戯室等で思いきり体を動かして遊ぶようになってきた。友達と一緒に、いろいろな用具を使った遊びを楽しむ姿も見られるようになってきた。

【ねらい】

友達と一緒に、フープを使ったいろいろな動きのある遊びを楽しむ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★様々な大きさや色のフープを遊戯室の床に置いておく。

○フープを使って自由に遊び始める。(電車ごっこ、ケンケンパ、フープ回し、フープ転がし など)

★宝島の物語が描いてある絵を準備し、活動の場面にに応じて提示する。

○宝島へ向かって「二人で船こぎ」をする。

うまくこげない。どうしたらいいかな。
【葛藤】【思考】

ひっぱりすぎたら、手が離れちゃう。
【力の加減】

ぼくからひっぱるね。
【動きの工夫】

じゃあ、そっちに倒れるよ。それ、ぎっちりこ。
【動きの工夫】

○宝島に向かう途中で「魚釣り」をする。

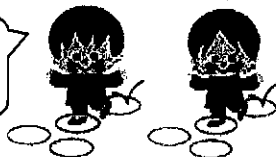
フープを離さないようにしっかり持つよ。
【動きの工夫】

運ばれる時は、手を上にあげたほうがいいかな。
【動きの工夫】

重たいけど、がんばって運ぶぞ。
【チャレンジ】

○「ケンケンパの橋」を渡り、宝島へ行く。

どうしたらうまくできるかな。
【試行錯誤】



ケンケンパができたよ。
【達成感】

○活動の振り返りをする。

■フープを使ったいろいろな動きを楽しめるように、宝島探検を提案する。

■いろいろな動きにつながるように、友達の様子を紹介したり、動きを見合う場面を設けたりする。

■子どもの遊びの様子を見守り、息を合わせたり、力を加減したりすることができるよう言葉かけをし、考えながら遊んでいる姿を認める。

■体を動かして遊ぶ楽しさを味わうことができるよう、必要に合わせて個に応じた援助をする。

■子どもたちの自信につなげるため、繰り返し遊ぶなかで、何度も挑戦する姿を認めていく。

■次回の活動への意欲につなげるために、子どもたちの楽しかった思いやがんばったところに共感する。

【評価】

・いろいろな体の動かし方や力の加減を考えながら、友達と一緒にフープを使った運動遊びを楽しんでいる。

4歳児 活動事例2

みんなで池を作ろう (7月)

観点 (人とのかかわり) 視点 (協同性 へいっしょにやろうよ)

【遊びの経過】

友達の名ねをしたり、譲り合ったりして遊ぶなかで、思いを伝え、かかわり合う姿が見られるようになってきた。友達と一緒に砂場に水をためて池に見立てる遊びが広がり始め、みんなで池を作ろうということになった。

【ねらい】

自分の思いを伝えたり、友達の思いに気付いたりして、一緒に池を作って遊ぶことを楽しむ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

- ★スコップ、とい、バケツ、ナイロン袋、シートなどを子どもたちが自由に使えるようにしておく。
- ★たらいに水をくんでおく。

○友達と一緒に穴を掘り始める。



大きな穴にしよう。
【意欲】

〇〇くん、そっちを掘って。
【提案】

それ、いいね。
【共感】

わかった。
【協力】

- 友達と一緒に活動するきっかけとなるよう、子どもの言葉や友達とやりとりをしている様子をまわりの子どもに広げる。
- 子どもたちが意欲的に活動できるように保育者も遊びに入り、一緒に考えたり、道具や用具の使い方のヒントを与えたりする。

○友達と遊ぶなかで役割をつくる。



どんどん水を入れようよ。
【意欲】
【共通の目的】

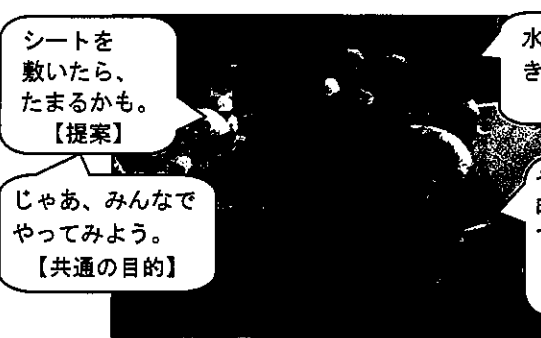
水を流すよ。
【提案】

ぼくが水をくむね。
【協力】

もっと掘りたいのに。ちょっと待って。
【葛藤】 【折り合い】 【人とのかかわり】

- 友達と一緒に遊ぶ楽しさや協力する大切さが感じられるよう、思いを伝えたり、友達の思いに気付いたりして遊ぶ姿を認めていく。
- 相手の思いを受け入れたり、折り合いをつけたりして遊べるように見守り、必要な時は保育者が仲立ちをする。

○みんなで水をためようとする。



シートを敷いたら、たまるかも。
【提案】

水がたまってきたよ。
【満足感】

じゃあ、みんなでやってみよう。
【共通の目的】

やったあ。明日もみんなでしょうね。
【喜び】
【期待感】

- 子どもの気付きを認めるとともに、必要に応じてアドバイスしたり手伝ったりする。
- みんなで一緒に作った喜びが感じられるように、嬉しい気持ちや満足した気持ちに共感する。
- 明日も遊べるように、作った池をそのままにしておくことを伝え、遊びが続けられる場を保障する。

【評価】

・自分の思いを伝えたり、友達の思いを受け入れようとしたりしながら、一緒に池を作って楽しく遊んでいる。

4歳児 活動事例3

どろんこで遊ぼう(8月)

観点(興味・関心) 視点(探究心 ~どうしてかな~)

【遊びの経過】

体が汚れる遊びをする子どもが少なかったが、スコップで大きな穴を掘って水を入れると、子どもたちは中に入り泥んこ遊びを楽しんだ。おもしろい、楽しいという思いから、泥んこ遊びをもっと楽しくするよう、友達と考えたり工夫したりするようになってきた。

【ねらい】

砂、水、泥に触れて、自分なりに考えたり試したりして工夫して遊ぶことを楽しむ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

- ★スコップ、とい、ペットボトル、土管、バケツ、ナイロン袋など、十分な数を準備する。
- ★砂場を掘り起こし、たらいに水をくんで置いておく。

○穴を掘り、水をためて中に入る。
○水がもれないようにする方法を考える。

大変。
水がもれる。
【切実感】

いいこと考えた。
はしっこを砂で止めてみよう。
【発見】【思考】

おふるだ。
冷たくて気持ちいいよ。
【満足感】

すごい。
もれなくなった。
よかった。
【驚き】【満足感】

- ★自分たちの考えを十分に試せる時間と場を保障する。

○穴にもっと水をためる方法を考えたり試したりする。

といをつないで
水を入れよう。
【思考】【工夫】

といのつなぎ目
から水がもれる。
どうにかしたい。
【意欲】【切実感】

といが動かないように
両端を砂で止めよう。
【工夫】【試行錯誤】

といのつなぎ目に
土管を置いたらどうかな。
【思考】【探究心】

○水を穴の方に流す方法を考えたり試したりする。

なんで、水が流れて
いかないのかな。
【疑問】

片方を高くしたらいいんだね。
水がいっぱいたまよ。
【驚き】【発見】

やった。穴のほうに流れた。
【充実感】【満足感】

■楽しい、もっとおもしろくしたいという気持ちが膨らむように、子どもたちが楽しんでいる気持ちに共感する。

■子どもの驚きや発見を受け止めることで、自分なりの考えや工夫を生かして遊べるようにする。

■子どもの思いや願いに共感するとともに、友達と一緒に考え工夫することができるよう、友達につないでいく。

■子どもたちが進んで考えようとする意欲、自分なりに試行錯誤しようとする態度を尊重し、保育者も子どもと共に考える姿勢で、一緒に活動する。

■子どもたちの興味・関心や疑問、知りたい、やりたいという気持ちにそって、保育者がモデルとなって動いたり、アイデアを示したりする。

【評価】

・砂、水、泥に進んでかかわり、自分なりに考えて試したり、友達や保育者のアイデアを取り入れたりして工夫しながら遊んでいる。

4歳児 活動事例4

大きなかぶごっこをしよう(2月)

観点(興味・関心) 視点(表現 へつたえたいな しりたいたいな)

【遊びの経過】

発表会を経験したことで、友達と一緒に楽器遊びやダンス、劇遊びを楽しみ、表現することに意欲的になってきた。絵本「大きなかぶ」の読み聞かせをきっかけに、大きなかぶを作るなど遊びが発展し、「大きなかぶごっこ」が始まった。

【ねらい】

お話や役のイメージを豊かにし、友達と一緒に劇遊びを楽しむ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★「大きなかぶ」の絵本や曲のCDを子どもたちのよく見えるところに置き、自由に使えるようにしておく。

○曲に合わせて踊ったり、身振りやせりふをつけて遊んだりして、お話や役のイメージを膨らませる。

踊るのが
楽しいね。

【意欲】
【興味・関心】

♪大きなかぶは
ぬけました♪

【楽しさ】

やったあ。ぬけたね。うれしいな。【表現】

■お話のイメージを膨らませながら活動できるよう、ストーリーを振り返ったり曲を聞いたりする。

■保育者も一緒に踊ったり、身振りをつけたりすることで、楽しさを共有し、表現活動への意欲を高める。

○役ごとに集まり、踊りや身振り、せりふなどを相談する。

こんなふう
動こうよ。

【提案】

こんな言い方
したら、どうかな。

【イメージの表現】

いいね。
そうしよう。

【イメージの共有】

しゃがんでつなひきみたいにひっぱろうよ。

【イメージの共有】

■一人一人の意見や考えが大切にされるように相談の様子を見守りながら、必要に応じて助言をする。

■友達とイメージを共有しながら楽しんで表現できるよう、互いの表現を見合いながら進めるよう言葉かけをする。

○みんなで「大きなかぶ」の劇遊びをする。

おもしろいね。
【興味・関心】

楽しかったね。
またやりたいな。

【満足感】
【楽しさ】

本当のおじいさんみたいだったね。
ネズミの踊りがかわいかったな。【認め合い】

■劇遊びで表現する楽しさを味わうことができるよう、発表する場を設け、表現を認める言葉かけをする。

■子どもの思いを引き出し、感想を伝え合うことで、自分たちで遊びを進めた満足感を味わい、次の活動への期待感がもてるようにする。

【評価】

・お話や役のイメージを膨らませて動作やせりふを考え、役になりきって友達と一緒に劇遊びをしている。

(6) 5歳児

5歳児 活動事例1 砂や水で遊ぼう (7月)

観点 (人とのかかわり) 視点 (自己発揮 ~みて、きいて~)

【遊びの経過】

暑くなり、水をたっぷり使ったの砂遊びに、シャボン玉や水鉄砲、石鹸遊びも加わり、遊びが広がってきた。自信がなく、自分の思いを伝えきれない様子が見られたが、みんなの一つの遊びに取り組むことで、自分なりのめあてをもって徐々に思いを伝えながら遊べるようになってきた。

【ねらい】

砂や水を使ったダイナミックな遊びを通して、自分の思いや考えを友達に伝えたり、友達の思いを受け入れたりして、自分の力を出し切って遊ぶ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★スコップ、バケツ、ペットボトル、ペットボトルをつないで作ったといなどを用意しておく。

○はじめは数人のグループでそれぞれ砂山作りなどを始める。

○といを砂山につなげ、どんどん水を入れる。

そうめん流しみた
いだな。
【発見】【気づき】

ほくも入れて。
【興味・関心】

面白そう。
もっと流そ
う。【共感】

どどんたまって、
温泉みたいだな。もっ
と入れよう。【夢中】

わあ。たまった。
たまった。【満足感】

○砂山の間の水たまりを発見し、温泉作りを始める。

砂山が合体した。もっと水
を入れよう。【感動】【意欲】

ここに水を入れて、大きな温泉
にしよう。
【提案】
【共通の目的】

これくらいの水
でいいかな。
【思考】【人とのかかわり】

うん、いいよ。
【共感】

もう少しで
流れるよ。
【夢中】

○楽しかった遊びを友達と振り返りながら片付けをする。

温泉になって
楽しかった。
【満足感】

みんなが来て
くれてうれし
かった。
【達成感】

明日も続きをしようね。【期待感】

- どうしたら大きな山になるか、自分の思いを伝え、相談して遊ぶ様子を見守る。
- 山がだんだん高くなったり、水がたくさんたまったりする様子をみんなで見守ることで、自分なりの力を発揮して遊ぶと、遊びがより面白くなることを実感する。

- 自分の思いを伝えようとする姿や、相手の思いを受け入れようとする姿を認め、思いを伝え合う心地よさを感じられるようにする。
- 自分の思いや考えを言えない子どもの話を聞き、その思いに寄り添い、伝え方を知らせたり励ましたりする。
- それぞれの遊びをしていた子どもたちが、一つの目的をもって友達と一緒に遊ぶなかでの気づきや発見、感動をしている姿に共感する。

- グループ同士でかかわりを広げ、自分の力を発揮して遊んだことを実感できるように、遊びを振り返り、満足感や達成感を高める。
- 片付けをしながら、子どもたちの気持ちを受け止め、明日の活動への期待となるような言葉をかける。

【評価】

・友達と思いを伝え合いながら、自分の力を発揮して一緒に遊びを進めている。

5歳児 活動事例2

われにくいシャボン玉を作ろう（8月）

観点（興味・関心）

観点（探究心 ～どうしてかな～）

【遊びの経過】

色水遊びやシャボン玉作りを楽しみ、水や泡に興味をもった。石鹼でシャボン玉液を作るがすぐに割れてしまい、なかなか膨らまなかった。「他にも入れてみよう。」という子どもの声から、どんなものを混ぜるか友達や保育者と話し合った。

【ねらい】

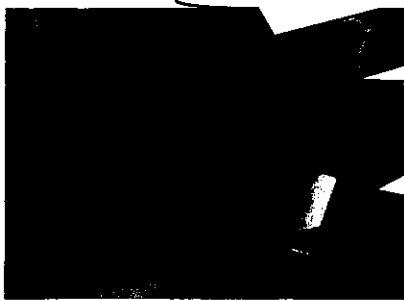
さまざまな材料を使い、量を調節しながら、シャボン玉が作れるように試したり考えたりして遊ぶ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★石鹼水、レモン水、塩水、砂糖水、のりを溶かした水、スプーン、カップなどいろいろ試すことができるような材料や用具を用意する。

★何度も試せるように、考えたり再挑戦したりできる時間を保障する。

○石鹼水にいろいろな液を混ぜていき、シャボン玉ができるか試す。



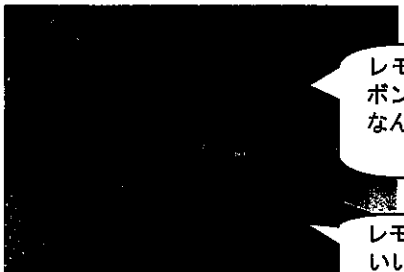
全部入れてみよう。【興味・関心】【意欲】

すぐに割れちゃったよ。【発見】

もう1回やってみよう。【挑戦】
【意欲】【探究心】

- シャボン玉液の作り方や用具の使い方が分かりやすいように、実際に子どもたちの前で説明しながら作る。
- 子どもたちが自分で混ぜる液を選んだり、量を考えたりして、工夫できるよう声をかけていく。
- 何度も試している姿を認め、その結果を友達と共有できるように仲立ちとなる。

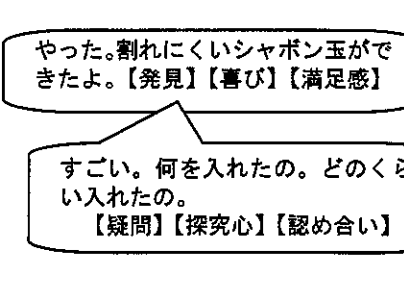
○割れにくいシャボン玉の液作りに挑戦する。



レモン水を入れるとシャボン玉ができないよ。なんでだろう。【疑問】
【思考】【探究心】

レモン水は入れない方がいいね。【発見】

- 子どもたちの気付きや発見を、しっかり認めたり共感したりして、自信につなげる。
- 思うようにいかず困っている子どもには、まわりの友達に目を向けられるように声かけをし、自分でやってみようとする気持ちを高める。



やった。割れにくいシャボン玉ができたよ。【発見】【喜び】【満足感】

すごい。何を入れたの。どのくらい入れたの。
【疑問】【探究心】【認め合い】



スプーンに1杯ずつだよ。【提案】

やってみよう。【意欲】

ありがとう。ほくも割れないのができたよ。【喜び】【感謝】

【評価】

・さまざまな材料のなかから混ぜるものを選んだり、組み合わせを変えたり、量を調節したりしながら、割れにくいシャボン玉を作るよう、何度も試して遊んでいる。

5歳児 活動事例3

宝とりゲームをしよう(11月)

観点(人とのかかわり) 視点(協同性 へいっしょにやろうよ)

【遊びの経過】

運動会後も、リレーやジャンケン遊びなどチームに分かれた遊びを繰り返し経験してきた。そのなかで、勝ち負けにこだわる姿や自分の思いを通そうとする姿が見られた。遊びの後に、みんなで話し合う機会をもつことで、自分とは違う友達の思いにも気付くようになり、折り合いをつけようとする姿につながってきた。

【ねらい】

友達と自分の思いを伝え合い、相談しながら宝とりゲームを楽しむ。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★自分たちで遊びの準備ができるよう、必要な用具を安全な場所に並べて置く。

○宝とりゲームをする。

助けにきたよ。
【人とのかかわり】
【仲間意識】

ありがとう。今度は捕まらないようにしよう。
【喜び】【意欲】

助けたいなあ。でも鬼に捕まるかも。【葛藤】

こっちにも助けに来てほしいな。
【期待】

捕まえたので、逃げられないようにしよう。【意欲】

○作戦タイムで、どうしたら捕まらないで宝がとれるか相談する。

私が先に出るから、誰か反対側から出て。【提案】

もっとたくさん人が出た方がいいかも。【提案】

分かった、それいいね。【共感】

じゃあ、ぼくも出る。【意欲】

みんなで力を合わせてがんばるぞ。【協力】

エイエイオー。
【意欲】【一体感】

○ゲームを終え、遊びの振り返りの話し合いをする。

■昨日までの遊びの楽しかったことを思い出し、今日の遊びに期待がもてるようにする。

■友達と思いを伝え合いながら遊ぶ楽しさが感じられるよう、宝をとり、喜び合う姿や助け合う姿を認める。

■作戦タイムを設け、友達と役割を決めたり、ルールを作ったりするなど、チーム内の友達と折り合いをつけながら、協力して遊びを進めていく楽しさが感じられるようにする。

■友達との思いの行き違いや葛藤があった時は、互いの思いや考えを伝え合いながら遊ぶ楽しさが感じられるように、保育者が仲立ちをする。

■チームの友達を応援したり、声をかけ合ったりするなど、協力していた姿や自分の思いを伝え合う姿を認め、やり遂げた満足感を高める。

■今日の活動を振り返るなかで、友達の思いに気付き、相談して遊んでいた姿をみんなで共有する。

【評価】

・自分の思いを出し合いながら、どうすれば宝がとれるかなど作戦を立て、友達と協力して遊んでいる。

5歳児 活動事例4

もうすぐ1年生へ体験入学へ（2月）

観点（興味・関心）

視点（意欲 ～おもしろそうだな～）

【遊びの経過】

友達と話し合い、協力し、自分たちで遊びや生活を進めようとする姿が見られるようになってきた。交流で1年生と触れ合うことを通して、あこがれの気持ちを持ち、就学への関心が高まってきた。

【ねらい】

1年生と一緒に活動するなかで、1年生の言動に触れ、就学への期待を膨らませる。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★安心して過ごせるよう、今までの交流時と同じペアにする。

★事前に1年生担任と協議し、互いのねらいを明確にしておく。

○ジャンケン列車をして遊ぶ。



- 園で行っている遊びを活動に取り入れることで、緊張をほぐし、意欲的に参加できるようにする。
- 安心して遊びを進めていけるように、1年生とペアになっているか確認する。

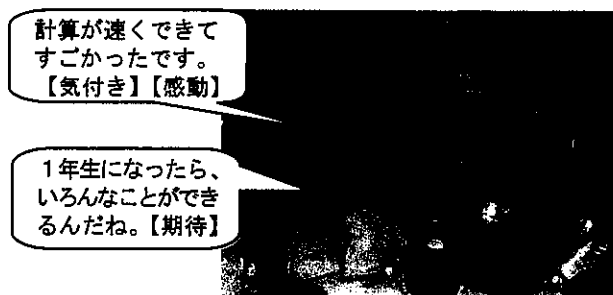
○学校クイズで1年生と話し合う。



- 1年生に自分の思いを伝えながら、一緒に遊びを楽しめるように、必要に応じて言葉かけをする。
- 学校の先生や、園にはない部屋などについて知ることができた喜びに共感し、入学への期待を高める。

○歌を歌う。

○1年生の「できるようになったこと」の発表を見て、感想を話す。



- 交流の際、いつも優しく接してくれる1年生に、感謝の気持ちを込めて歌うように声をかける。

- あこがれの気持ちをもてるよう、「1年生すごいね。」など子どもたちに声をかけたり、一緒に拍手をしたりして気持ちを盛り上げる。
- 自分の思ったことや感じたことをみんなの前で伝えたことを認め、自信につなげる。

【評価】

・楽しんでゲームに参加したり発表したりして、学校生活に興味をもち、就学への期待を膨らませている。

第V章 スタートカリキュラム

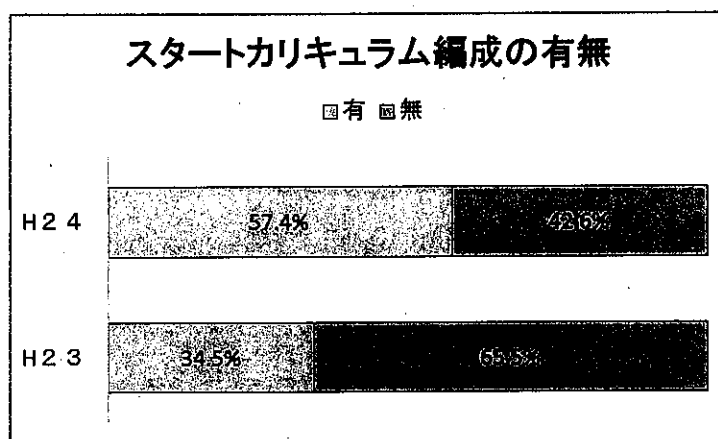
1 スタートカリキュラムの編成

(1) スタートカリキュラム編成の意義

遊びを中心とした幼児期の教育と、各教科等の学習を中心とした小学校教育では、教育内容や指導方法等は異なります。しかし、子どもの発達や学びは連続しており、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図ることが大切です。それにより、児童がスムーズに小学校生活をスタートすることができ、「小1プロブレム」の発生を防止することにつながります。

そこで、児童の学校生活への適応を進めるために、小学校入学後の一定期間においては、「明日も学校に来たい。」という児童の意欲をかきたてることのできるような、幼児期の教育との接続を意識したスタートカリキュラムを編成し、実践していくことが重要です。

平成24年度学校教育実施状況調査によると、「スタートカリキュラム編成の有無」について右記のような結果が見られました。各学校において編成が進んでいることがわかります。今後さらに編成に向けて取り組み、より多くの学校で実践されることが求められます。



平成23・24年度学校教育実施状況調査より

(2) スタートカリキュラム編成の流れ

スタートカリキュラムを編成する際は、幼児教育との接続の観点から、生活科を中心とした合科的・関連的な指導を行うなどの指導の効果を高めるための工夫が必要です。

*合科的な指導

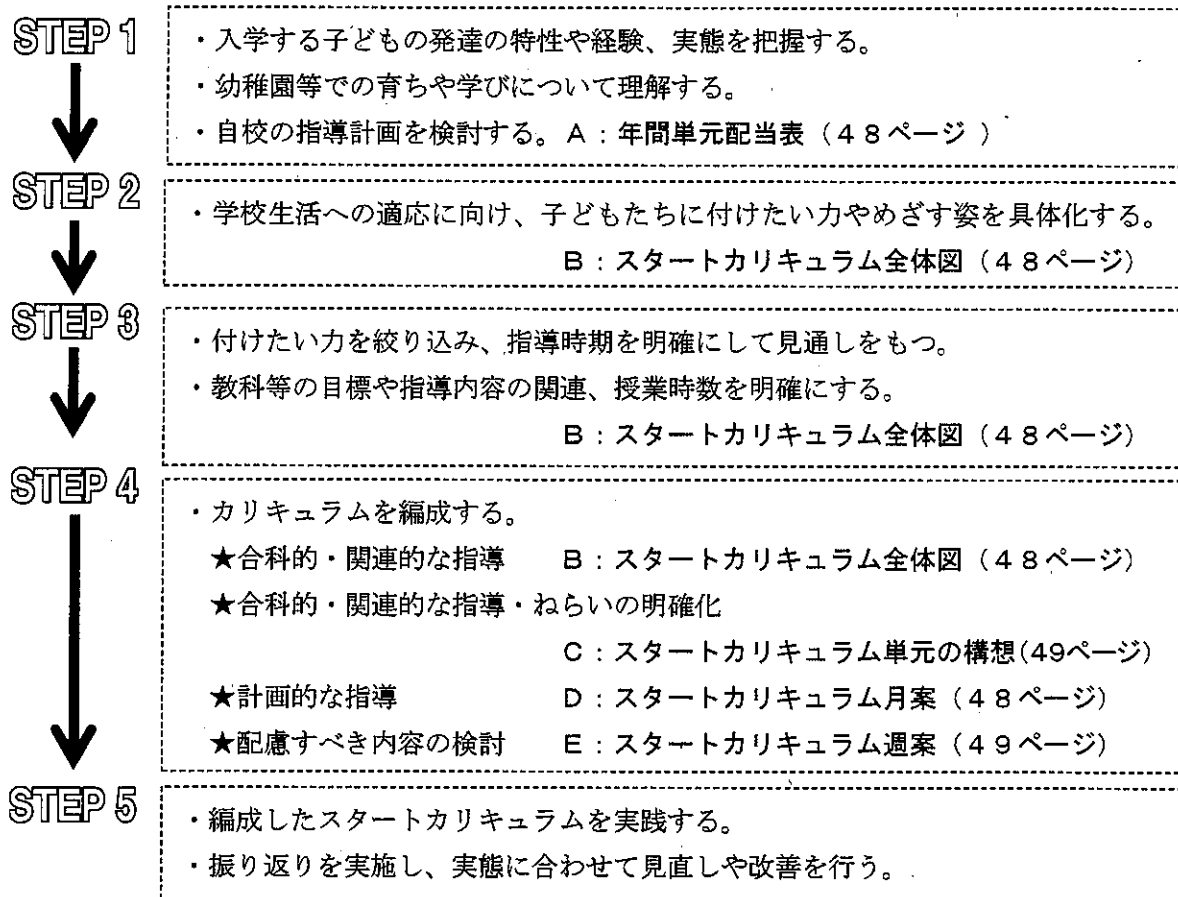
- ・各教科のねらいをより効果的に実現するための指導方法の一つで、単元又は1コマの時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせて、学習活動を展開するもの。

*関連的な指導

- ・教科等別に指導するに当たって、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導するもの。

小学校学習指導要領解説 総則編 (文部科学省 平成20年8月)

例えば、以下のような流れで、スタートカリキュラムを編成していきます。



* A～E スタートカリキュラム関係資料（48ページ・49ページ参照）

（3）スタートカリキュラム編成における主な留意点

スタートカリキュラム編成においては、各学校の実態を踏まえたうえで、次の点について留意していきます。

- ①幼稚園、保育所、認定こども園と連携協力すること
- ②個々の児童に対応した取組とすること
- ③学校全体での取組とすること
- ④保護者への適切な説明を行うこと
- ⑤授業時間や学習空間などの環境構成、人間関係づくりなどについて工夫すること

参考：「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」平成22年11月22日
（幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議）

2 スタートカリキュラムの例

* 第1学年の年間指導計画や年間単元配当表をもとに、スタートカリキュラムを編成

A 年間単元配当表

単元	4月(2週)	5月(3週)	6月(4週)	7月(3週)
国語	1	2	3	4
算数	5	6	7	8
理科	9	10	11	12
社会	13	14	15	16
英語	17	18	19	20
音楽	21	22	23	24
美術	25	26	27	28
体育	29	30	31	32
道徳	33	34	35	36

B スタートカリキュラム 全体図

POINT
各教科等の時間数を示しています。それにより、各教科等のねらいの実現に向かい、効果的な授業時間の活用を図ることができます。

C 年間指導計画

単元	4月(2週)	5月(3週)	6月(4週)	7月(3週)
国語	1	2	3	4
算数	5	6	7	8
理科	9	10	11	12
社会	13	14	15	16
英語	17	18	19	20
音楽	21	22	23	24
美術	25	26	27	28
体育	29	30	31	32
道徳	33	34	35	36

D スタートカリキュラム 月案

単元	4月(2週)	5月(3週)	6月(4週)	7月(3週)
国語	1	2	3	4
算数	5	6	7	8
理科	9	10	11	12
社会	13	14	15	16
英語	17	18	19	20
音楽	21	22	23	24
美術	25	26	27	28
体育	29	30	31	32
道徳	33	34	35	36

E スタートカリキュラム 週案

単元	4月(2週)	5月(3週)	6月(4週)	7月(3週)
国語	1	2	3	4
算数	5	6	7	8
理科	9	10	11	12
社会	13	14	15	16
英語	17	18	19	20
音楽	21	22	23	24
美術	25	26	27	28
体育	29	30	31	32
道徳	33	34	35	36

資料編

『鳥取県幼保小連携カリキュラム』開発委員会

【開発委員】

担当	氏名	所属	職名
0歳児	福田 泰雅	赤碕保育園	園長
	田中 京子	キッズタウンかみごとう保育園	園長
1歳児	溝上 智子	大山町立大山きゃらぼく保育園	園長
	松重 真由美	わかば園	園長
2歳児	小川 照美	鳥取市立城北保育園	副園長
	角 陽子	湯梨浜町立田後保育所	所長
	高木 睦子	鳥取市児童家庭課	主査
3歳児	富田 澄恵	鳥取市立すくすく保育園	副園長
	日野 彰則	認定こども園学校法人倉吉幼稚園	副園長
4歳児	網尾 陽子	鳥取第二幼稚園	教務主任
	三村 敬子	鳥取市立こじか幼稚園	主任教諭
	岩田 正子	北栄町教育委員会	指導主事
5歳児	西山 徳子	鳥取市立福部幼稚園	副園長
	森田 るり子	岩美町立大岩保育所	副所長
小学校 1年生	大坪 幸恵	鳥取市立城北小学校	教諭
	高垣 陽子	鳥取市立福部小学校	教諭
	中澤 美佳	鳥取市立青谷小学校	教諭
アドバイザー	塩野谷 斉	鳥取大学地域学部	教授

【事務局】

鳥取県教育委員会事務局小中学校課 東部教育局 中部教育局 西部教育局
鳥取県福祉保健部子育て応援課

【開発の経過】

会議	開催日	内容
第1回	平成25年 5月27日(月)	・『鳥取県幼保小連携カリキュラム開発』にあたって ・講義「鳥取県幼児教育振興プログラム」と 『鳥取県幼保小連携カリキュラム』をつなぐ 鳥取大学 塩野谷 斉 教授
第2回	平成25年 7月30日(火)	・各年齢のカリキュラムについて
第3回	平成25年 9月3日(火)	・各年齢のカリキュラムについて ・活動事例について
第4回	平成25年 11月18日(月)	・『鳥取県幼保小連携カリキュラム』最終案について ・講義『鳥取県幼保小連携カリキュラム』の役割 鳥取大学 塩野谷 斉 教授

『幼児教育パワーアップ事業』実践園

園名	住所
鳥取市立福部幼稚園	689-0106 鳥取市福部町海士345-1
鳥取市立城北保育園	680-0801 鳥取市松並町2丁目305
鳥取市立すくすく保育園	689-0501 鳥取市青谷町青谷604
鳥取第二幼稚園	680-0811 鳥取市西品治856

「遊びきる子ども」を育む

幼児教育・保育の参考となる刊行物など

★家庭・地域教育課 「家庭で応援！小学生スタートブック



～子どもの自立スイッチ、ON!～

【概要】小学校に入学する子どもの成長を応援できるよう、保護者が日々の家庭生活で心がけることをまとめています。「小学校生活わくわくスタート」「家庭教育のポイント」「子どもの自立に向けて」「みんなが子どもの応援団」のテーマで、「子どもの自立を応援しよう」というメッセージをこめたハンドブックです。

<http://www.pref.tottori.lg.jp/kateichiiki/>

★健康政策課

鳥取県健口食育プロジェクト事業

「食べる力を育むために」

～お口を使った遊びのメニュー～

「食べる力を育むために」

～お口を使った遊びの取組事例集～



【概要】「上手に噛めない」や「食事時間が長い」等、保育の場で抱える困り感を歯科の観点からサポートする取組です。乳幼児期に頬や唇・舌等の筋肉を十分に動かすことは、「食べる」「話す」等の幼児の口腔機能の発達を促します。冊子中の「お口を使った遊び」は、朝の会や給食前の時間、参観日等の行事等でも実践され、4歳児を中心に県内保育所・幼稚園で取組が広がっています。

<http://www.pref.tottori.lg.jp/hanokenkou/>

★県立図書館「児童図書室」ホームページ



【概要】選書や読み聞かせの参考になるよう「おすすめ本紹介リスト」や「おはなし会プログラム」等を掲載しています。良質な本は、子どもに喜びを与え、言葉や想像力、考える力、生きる力を育てるなど、子どもの心の成長を促します。子どもが良い本と出会えるよう、子どもに関わる大人が子どもに手渡す本を丁寧に選んでいきたいものです。

<http://www.library.pref.tottori.jp/>

情報提供いただいた幼稚園・保育所・認定こども園・小学校

- ・鳥取市立福部すなっこ園
- ・鳥取市立河原あゆっこ園
- ・鳥取市立鹿野幼児センターこじか園
- ・湯梨浜町立はわいこども園
- ・湯梨浜町立松崎幼稚園
- ・若桜町立わかさこども園
- ・北栄町立認定こども園北条こども園
- ・鳥取大学附属幼稚園
- ・鳥取第二幼稚園
- ・認定こども園学校法人倉吉幼稚園
- ・鳥取市立城北保育園
- ・鳥取市立すくすく保育園
- ・岩美町立大岩保育所
- ・岩美町立浦富保育所
- ・岩美町立みなみ保育所
- ・湯梨浜町立田後保育所
- ・北栄町立大谷保育所
- ・大山町立大山きゃらぼく保育園
- ・赤碕保育園
- ・キッズタウンかみごとう保育園
- ・わかば園
- ・鳥取市立城北小学校
- ・鳥取市立国府東小学校
- ・鳥取市立福部小学校
- ・鳥取市立青谷小学校



鳥取県幼保小連携カリキュラム

「遊びきる子ども」をめざして



平成26年3月発行

発行：鳥取県教育委員会事務局小中学校課

電話 (0857) 26-7512

ファクシミリ (0857) 26-8170

電子メール shouchuugakkou@pref.tottori.jp

